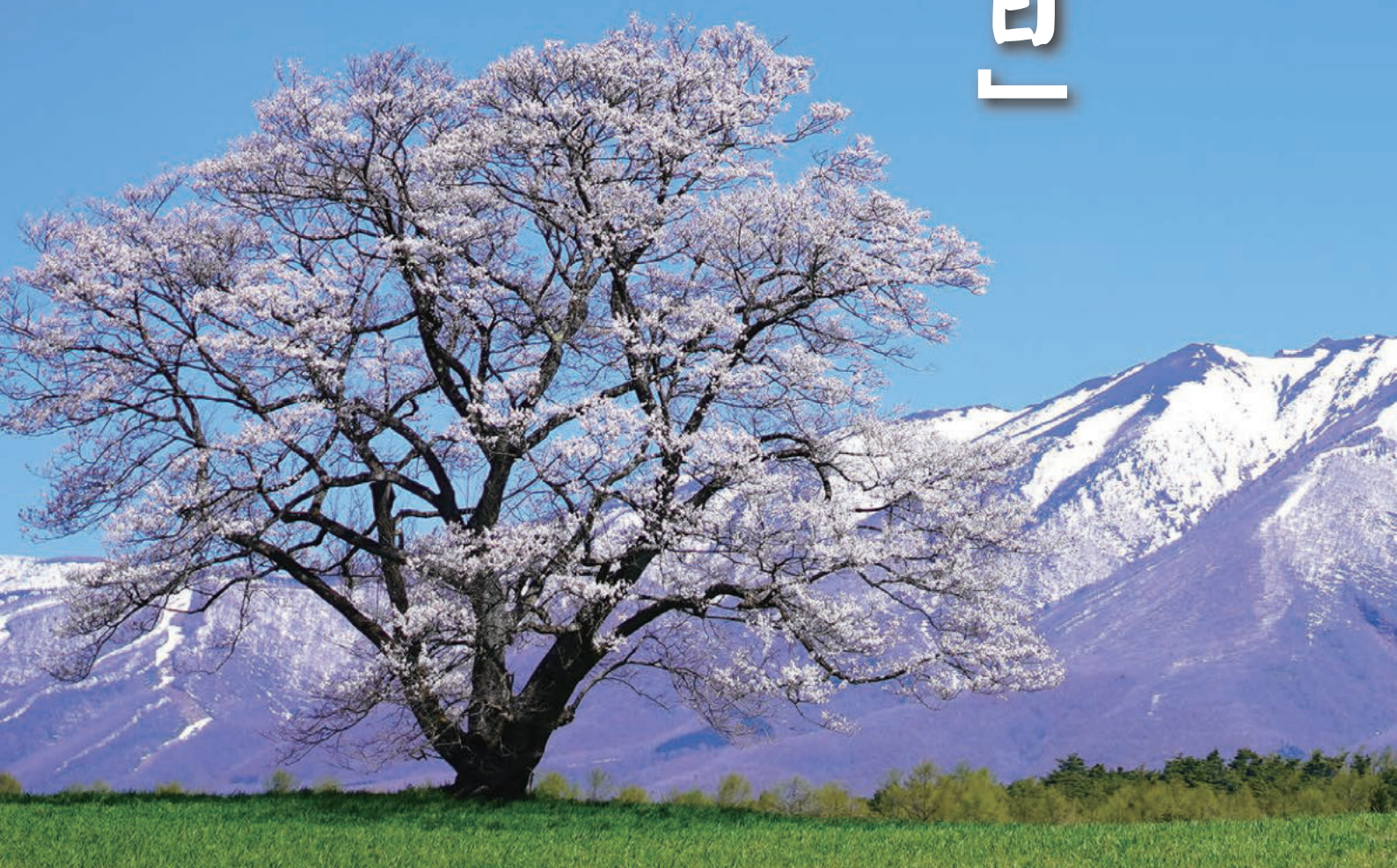


設立20周年記念誌

「いわて教育の日」



令和7年12月

「いわて教育の日」推進協議会

目次

一、挨拶・祝辞	
○挨拶 「いわて教育の日」推進協議会 会長	吉川 健次
○祝辞 岩手県知事	達増 拓也
岩手県教育委員会教育長	佐藤 一男
	4 3 2
二、「いわて教育の日」設立から	
○「いわて教育の日」推進協議会の設立と歩み	6
○「いわて教育の日」推進協議会規約	8
○いわて教育の日に関する条例	9
○「いわて教育の日」のつどい講演講師一覧	10
三、10年を振り返って	
○第23号 情報紙から（設立10周年記念事業特集）	12
○第24号～第31号 情報紙から	16
○第32号～第35号 コロナ禍の情報紙から（児童生徒発表の中止）	32
○第36号～第41号 情報紙から	40
○第42号～第43号 情報紙から（設立20周年記念号）	52
四、「いわて教育の日」を支えた皆さん	
○推進協議会歴代役員・事務局員一覧	58
○推進協議会構成団体等一覧（H27・R7）	60
○「いわて教育の日」推進協議会設立20周年記念事業実行委員会	62
○記念誌編集後記	62

1

挨拶・祝辞

○挨拶

「いわて教育の日」推進協議会

会長 吉川 健次

○祝辞

岩手県知事

達増 拓也

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一男

挨拶

「いわて教育の日」推進協議会会長 吉川 健次



「いわて教育の日」推進協議会が、この度、設立二十周年を迎え、記念誌を発刊するにあたり、岩手県知事達増拓也様、岩手県教育委員会教育長佐藤一男様からご祝辞を頂戴できますことは、この上ない慶びであり、感激に堪えないところであります。

二十数年前、社会情勢の変化に伴い、児童生徒の虐待・いじめ等の事件発生が相次ぎ、全国的に憂慮される状況となり、教育尊重の機運を高め、国民挙げて、子どもの教育の大切さを考え、その振興を期することが喫緊の課題となり、「教育の日」の制定が叫ばれるようになりました。

平成十二年から始まった「いわて教育の日」制定推進の運動が実り、念願の条例が制定されたのは、平成十七年三月二十八日で、施行は同年四月一日でありました。

条例の制定を受けて、「いわて教育の日」制定推進協議会を「いわて教育の日」推進協議会と改称し、条例に基づき、県が行う活動の推進に協力し、本県の教育の充実に資することを目的とすることにし、引き続き岩手県公立学校退職校長会が事務局を担当することになりました。

お陰様で「いわて教育の日」推進協議会に改組、設立して今年で二十年目という節目の年を迎えました。そこで、今年度の推進協議会の構成員全体会議に諮り、「設立二十周年記念誌」を作成することになりました。

本誌「設立二十周年記念誌」は、平成二十七年の「設立十周年記念誌」発刊から後の十年間の歴史を顧み、その活動を記録して、尽力された各位に感謝するとともに、本会の更なる充実と発展を図るための資料とすべく編纂いたしました。推進協議会の主な活動や、これまで発行してきた情報紙にみる啓発普及活動の実践等、本会が行った活動、実践の状況を出来るだけ詳しく紹介しております。

「いわて教育の日」推進協議会が二十周年を迎える年、岩手県教育委員会では、「いわて教育の日」二十年目のつどいとして、今年も盛大に開催されました。このことが、岩手県の教育の今後一層の充実・発展に寄与する意義深いものになっております。

結びに、本協議会の活動推進に、ご指導ご支援を賜りました関係機関・団体の皆様方に、深く感謝を申し上げます。設立二十周年記念誌発刊にあたってのご挨拶といたします。

祝 辞

岩手県知事 達増拓也



「いわて教育の日」推進協議会が設立二十周年を迎えられたことに対し、謹んでお祝いを申し上げますとともに、これまで貴会が岩手県の教育振興に多大な貢献を果たしてこられた業績に対し、県民を代表して心から感謝申し上げます。

東日本大震災津波から十四年余りが経過いたしました。県ではこれまで、「いのちを守り海と大地と共に生きるふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿勢とし、国内外から多くの御支援をいただきながら、県民一丸となって復興に取り組んできました。被災した学校・教育関係施設等の復旧や、児童生徒の心のケアなど、御支援いただいた皆様に改めて敬意を表し、感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症など、これまで誰も経験したことのない課題への対応に当たって、家庭、地域、行政が一体となって、子ども達の教育環境を守り、支えてきました。

近年、子ども達を取り巻く環境は、さらに大きく変化しており、グローバル化や情報化の急速な進展などに加え、災害の激甚化・頻発化や、人口減少、地方創生への対応など、岩手の将来を担う人材を育成する教育に期待される役割はますます大きくなっています。

そのような中、県では、「いわて県民計画（2019～2028）」のもと、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことのできる地域社会を目指し、子どもの視点に立った政策の推進や子ども達が安心して学校生活を送ることができる環境の整備に取り組むとともに、いわての復興教育をはじめ、防災教育、いじめ防止への対応を含めた自他の命を大切にすることを推進しています。

震災や様々な課題を乗り越えていく中で、国内外との絆が生まれ、岩手の魅力が発信されるとともに、スポーツや文化・芸術の分野において全国や海外で活躍する若者が育ってきています。こうした活躍の背景には、復興や地方創生の事業によって、交通ネットワークや、スポーツ・文化施設等が充実し、意欲ある指導者のもと、関係者が力を合わせて若い力を育ててきたことがあります。

これまで、貴会は様々な教育関係機関の橋渡しを担い、県民の地域や国内外とつながる力を高められるとともに、教育に対する意識啓発に多大な貢献をされてきました。

貴会が設立二十周年を契機として、さらに充実、発展をされますとともに、子ども達の健やかな育成とウエルビーイングの向上に一層の御支援をいただきますことをお願いいたします。お祝いの言葉いたします。

祝 辞

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一男



「いわて教育の日」推進協議会の設立二十周年を心からお祝い申し上げますとともに、これまで貴会が県民の教育に対する意識啓発に御尽力されてきた御功績に対し、心から感謝申し上げます。

本県の教育は、多くの教育関係者のたゆまぬ研鑽の積み重ねによって築かれ、これまで培われてきた優れた伝統と基盤を継承しながら、時代とともに変化する様々な教育を取り巻く環境や多様なニーズに対応するための取組を進めてまいりました。

令和六年度に六十周年を迎えた地域ぐるみで子ども達を育む本県独自の教育運動である「教育振興運動」を基盤とし、平成十七年に条例制定した「いわて教育の日」が掲げる「学校、家庭及び地域社会が連携して、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成する」という理念のもと、どのような時代にあっても、岩手の子ども達一人ひとりの夢の実現を支え、岩手の未来の創り手として社会全体で育てていくことが岩手の教育の使命であるとの考え方に立ちながら、県民が一体となって本県における教育の充実と発展に向け取り組んでいるところであります。

この十数年来、東日本大震災津波をはじめ、幾度も大きな災害を経験した本県は、国内外から温かい御支援をいただきながら、県民が一丸となって復興に向けた取組を進めてまいりました。その歩みを進める原動力となったのは、郷土に誇りと愛着を持つ子ども達の主体性、協働的に物事に取り組み課題解決に向かう力など、いわゆる「生きる力」でありました。その力が育まれたのは、子ども達に寄り添い、子ども達の学びをいかに保障するかを考え、岩手だからこそできる教育を推進された皆様の熱意と努力によるところが極めて大きいものであります。

少子化、グローバル化や情報化の進展など、急速に変容する新たな時代の中で、誰一人として取り残されず、県民一人ひとりの個性や能力が発揮され、自分らしくいきいきと活躍できる社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいりますので、貴会のなお一層の御協力をいただきますようお願いいたします。

終わりに、貴会ますますの御発展と会員の皆様の御活躍を祈念いたしまして、祝辞といたします。

2

「いわて教育の日」 設立から

- 「いわて教育の日」 推進協議会の設立と歩み
- 「いわて教育の日」 推進協議会規約
- いわて教育の日に関する条例
- 「いわて教育の日」 のつどい講演講師一覧

「いわて教育の日」推進協議会の設立と歩み

(一) はじめに

今から二十五年ほど前のわが国では、急激な社会経済情勢の変化に伴い、青少年を含む凶悪犯罪をはじめ、児童生徒の虐待等の痛ましい事件が相次ぎ、全国的に誠に憂慮に堪えない状況であった。

そこで、教育尊重の気運を高め、国民挙げて子どもの教育の大切さを考え、その振興を期する日として「教育の日」を制定して取組むことが喫緊の課題であった。

本県では、この課題に、岩手県公立学校退職校長会（以下、退職校長会）が中心になって取組み、「いわて教育の日」制定推進協議会を組織して、県条例制定に漕ぎ着けることができた。

その後、会の名称を「いわて教育の日」推進協議会に改め、継続して取組み、今日に至っている。この一連の取組みについて、以下、概観する。

(二) 「いわて教育の日」制定推進協議会の

設立の経緯と主な活動

1 設立の経緯

退職校長会は、全国連合退職校長会の「教育の日」制定趣意書等を基に、平成十一年度

から諸会合等を通じ、情報提供や意見交流を進めた。退職校長会としてこの活動に取組み始めたのは、十二年度の定期総会で「教育の日」の制定推進を主要事業の一つに議決してからである。

十三年度の退職校長会理事会では、推進要項を定め、各教育関係団体に呼びかけて、同年九月十日「いわて教育の日」制定準備会を開催し、趣意書等について協議をした。

十四年度の総会では、「いわて教育の日」制定推進室設置を決定し、同室が中心となり趣意書・規約・業務計画及び収支計画書等の案を作成し、関係諸団体参加の準備委員会で検討を積み重ね、十四年九月二十七日には四十三団体の賛同を得て、「いわて教育の日」制定推進協議会設立が議決された。

2 主な活動

その後、寄付金の拠出要請、構成団体の加入拡大、岩手県議会議長への請願、知事及び県教育委員長への陳情等の活動を精力的に進めた。

情報紙「いわて教育の日」を平成十四年から発行し、条例制定を目指す制定推進協議会の活動を広く県民に発信した。

最終的には、県議会の超党派の「教育問題

研究会」（会長佐々木俊夫岩手県議会議員）の協力の下に条例案作りが進められ、平成十七年二月議会上程されて、三月二十四日の最終本会議で全会一致で可決された。

ここで成立した条例は、三月二十八日付け、岩手県条例第四十一号として知事名で公布され、平成十七年四月一日から施行された。

(三) 「いわて教育の日」推進協議会の設立の経緯と主な活動

1 設立の経緯

念願の「いわて教育の日に関する条例」が制定・公布され、四月一日施行されたことに伴い、これまでの組織の名称を平成十七年四月十三日開催の構成員全体会議において協議した。その結果、これまでの名称から「制定」の二字を削除し、「いわて教育の日」推進協議会に改称することが決定された。

2 主な活動

本協議会の規約第二条には、本会の目的を「岩手県が『いわて教育の日』に関する条例に基づき行う活動の推進に協力し、本県における教育の充実と発展に資すること」と規定している。第四条に、目的達成の事業として、

- (1) 「いわて教育の日」の啓発普及に関すること
- (2) いわて教育の日に関する条例に基づき、

県が行う活動の推進協力に関すること。
(3) その他、目的達成のために必要な事項を規定している。

本会は、これまで、この規定に則り、次の(1)、(2)、(3)の事業を推進してきた。

(1) 会議の開催

① 事務局会議

年度当初、本会会長が事務局長、事務局次長、事務局員(六名)を指名し、事務局体制が構成される。本会設立当時から、諸般の事情により事務局は退職校長会常任理事が担ってきている。

事務局会議では、事務局長・次長が作成した「当該年度の活動」に係る一切の原案を退職校長会常任理事会終了後に検討し、本協議会役員会議に提案している。

② 役員会議

役員会議には、本会規約第五条の役員(会長・副会長・監事・委員)が出席し、構成員全体会議に提案する議案の審議を行う。

③ 構成員全体会議

本会の最高決議機関である構成員全体会議は、年一回開催され、役員会議で検討された原案を協議する。

この会議には、来賓として岩手県教育委員

会教育長を迎え、祝辞を賜っている。

(2) 啓発普及活動

① 情報紙の発行・配付

本会の主要な事業は、「いわて教育の日」の啓発普及に関することであり、主な活動は、情報紙の発行・配付である。

発行は年間二回、前半は県が行う「いわて教育の日」のつどいの開催の直前に発行し、後半は直後に発行している。

発行部数は各五千部であり、本協議会構成四十七団体に配付するとともに、「いわて教育の日」事業主催の県教委、各教育事務所、共催者である各市町村教育委員会、及び岩手県協議会議員、盛岡市議会議員等にも進呈している。

情報紙の発行のねらいは、「いわて教育の日」に関する情報を広く県民に提供し、県民の教育に対する関心と理解を深めるとともに、本県における教育の充実と発展に資すること、「教育の日」に関する詳細な情報を届け、情報紙を介して交流の手掛かりとなり連携が図られること、会の活動の実態を記録し、永く残し、それを紐解く後代には貴重な資料となること、である。

② 諸会合等における啓発

各構成団体においても、十一月一日の「い

わて教育の日」、十一月一日〜七日の「いわて教育週間」に行事を行う場合は、「協賛事業」として位置付け、啓発を図っている。

(3) 県・県教育委員会との連携

① 「いわて教育の日」のつどいの開催

県・県教委主催により「いわて教育の日」のつどいが、毎年十一月上旬に開催される。

本会は、県教委より開催に関する情報を受け、その内容を情報紙を通して、つどい開催の共催団体となっている各構成団体に対して参加を要請している。

本会の会長は、共催者としてつどいの開行事に臨席している。

② 周年事業の開催

本会は「いわて教育の日に関する条例」に基づいて行う活動の推進に協力し、着実な歩みが続けているが、今後更なる発展と充実のため十年毎に周年事業を実施している。

平成二十七年は十周年記念として式典、祝賀会を行うとともに記念誌を発刊した。令和七年は二十周年記念として記念誌の発刊をすることとした。

「いわて教育の日」推進協議会規約

(名称)

第1条 この会は、「いわて教育の日」推進協議会という。

(目的)

第2条 この会は、岩手県が「いわて教育の日に関する条例」に基づき行う活動の推進に協力し、本県における教育の充実と発展に資することを目的とする。

(組織構成)

第3条 この会は、前条の目的に賛同する団体及び個人をもって構成する。

(事業)

第4条 この会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行うものとする。

- (1) 「いわて教育の日」の啓発普及に関すること。
- (2) いわて教育の日に関する条例に基づき、県が行う活動の推進協力に関すること。
- (3) その他、目的達成のために必要な事項。

(役員)

第5条 この会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 監事 2名
- (4) 委員 若干名

2 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 役員は、構成員全体会議において選出する。
- (2) 会長、副会長、監事は、役員相互選とする。
- (3) 会長は、学識経験者のうちから必要と認め推薦した者を、構成員全体会議に諮り委員に選出することができる。

3 役員任期は2か年とし、再任を妨げない。補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。

(役員任務)

第6条 会長は、会務を総理し、この会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、あらかじめ会長が定めた順位により、その職務を代理する。

3 監事は、会計を監査する。

4 委員は、会務の執行に当たる。

(顧問)

第7条 この会に、顧問を置くことができる。

2 顧問は、構成員全体会議の承認を経て、会長が委嘱する。

3 顧問は、会長の諮問に応ずるとともに、必要ある場合は、役員会議又は構成員全体会議に出席して意見を述べることができる。

(会議)

第8条 この会の会議は、構成員全体会議及び役員会議とし、会長が招集する。

(経費)

第9条 この会の経費は、会の活動に賛同する団体及び個人の会費等をもってあてる。

(会計年度)

第10条 この会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事務局)

第11条 この会の事務を処理するために事務局を置く。

2 事務局は、会長の指定する場所に置く。

3 事務局に、事務局長及び局員若干名を置き、会長が指名する。

(補則)

第12条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規約は、平成17年4月13日から施行する。

いわて教育の日に関する条例

いわて教育の日に関する条例をここに公布する。

平成17年3月28日

岩手県知事 増田 寛也

岩手県条例第41号

いわて教育の日に関する条例

(目的)

第1条 この条例は、県民の教育に対する関心と理解を深め、学校、家庭及び地域社会が連携して、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成するため、県民一人一人が教育の重要性を認識し、本県における教育のあり方を考える契機として、いわて教育の日を設け、及び必要な事項を定めることにより、本県における教育の充実と発展に資することを目的とする。

(いわて教育の日)

第2条 いわて教育の日は、11月1日とする。

(いわて教育週間)

第3条 この条例の目的の実現を図るための取組を重点的に行う期間として、いわて教育週間を設ける。

2 いわて教育週間は、11月1日から7日までとする。

(県の取組)

第4条 県は、この条例の目的の実現を図るため、教育に関する活動の奨励、広報その他の取組を行うものとする。

(市町村に対する支援)

第5条 県は、市町村が、地域の特性に応じ、この条例の目的の実現を図るための取組を行おうとする場合には、必要な助言その他の支援を行うものとする。

(県民の自発的な活動の促進等)

第6条 県は、いわて教育の日を契機とする県民の地域における教育に関する自発的な活動を促進し、及び教育に関する知識の普及啓発を図るものとする。

附 則

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

「いわて教育の日」のつどい講演講師一覧

周年	年度	講師名	大学名等	演 題
制定年	H17	藤田 英典	国際基督教大学 教 授	21世紀の教育課題と教育改革 ～家庭・学校・地域で支える子どもの教育～
1	H18	玄田 有史	東京大学社会科学研究所 助教授	「子ども・仕事・希望」 ～学校・家庭・地域はなにができるか～
2	H19	市川 伸一	東京大学大学院 教 授	学力と人間力を育てるこれからの教育の在り方
3	H20	岡本 薫	政策研究大学院大学 教 授	保護者や地域との連携・協力に不可欠なマネジメント思考とは？
4	H21	本田 由紀	東京大学大学院教育学研究科 教 授	日本社会の変化と教育の課題
5	H22	山折 哲雄	宗教学者	「個」と「ひとり」～心を育むとは～
6	H23	富永 良喜	兵庫教育大学大学院 教 授	大震災と心のケア
7	H24	太田 光春	文部科学省初等中等教育局 視学官	生涯学び続ける子どもたちを育てるには ～コミュニケーション能力の育成を目指して～
8	H25	山森 光陽	国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官	新たな知識や価値を創造する大人に向かって育つ子供の姿を求めて～復興教育の意義と課題～
9	H26	生重 幸恵	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク	子どもたちの豊かな学びを活かしたキャリア教育～学校・家庭・地域が元気になる～
10	H27	安西祐一郎	独立行政法人日本学術振興会 理事長	未来に生きる子どもたちのために ～これからの岩手の教育に期待すること～
11	H28	パネルディスカッション (パネラー) 永井健弘・平間茂英・村里洋子 (コーディネーター) 藤村恵一		○国体開催を契機としたスポーツ振興について
12	H29	梶田 叡一	プール学院大学学監・聖ウルスラ学院 理事長	これからの人間教育と学力の育成 ～我々の世界と我的世界を生きる力を育む～
13	H30	小野田正利	大阪大学大学院 教 授	子どものために手をつなぐ ～今、親そして大人ができること～
14	R 1	妹尾 昌俊	教育研究家 学校業務改善アドバイザー	働きがいがあり、かつ、働きやすい学校づくりに向けて
15	R 2	赤堀 侃司	東京工業大学 名誉教授	学校教育における情報化の推進
16	R 3	鈴木 寛	東京大学公共政策大学院 慶應義塾大学政策・メディア研究科 教 授	Society. 5.0において目指すべき教育の方向性と学校像
17	R 4	木村 泰子	大阪市立大空小学校 初代校長	子どもの事実から学校づくりを問い直しませんか～子供を育てる学校から子供が育つ学校に～
18	R 5	荒瀬 克己	独立行政法人教職員支援機構 理事長	未来に向けた教育の在り方について
19	R 6	千々布敏弥	国立教育政策研究所研究企画開発部 総括研究官	子どもの育つ姿と授業・学校のあり方
20	R 7	貞広 齋子	国立大学法人千葉大学 副学長・教育学部教授	主体的学習者の育成 ～学習指導要領の改訂と今後の教育～

3

10年を振り返って

- 第23号 情報紙から（設立10周年記念事業特集）
- 第24号～第31号 情報紙から
- 第32号～第35号 コロナ禍の情報紙から
（児童生徒発表の中止）
- 第36号～第41号 情報紙から
- 第42号～第43号 情報紙から
（設立20周年記念号）

みんなで推進

いわて教育の日

第23号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 小嶋久人

事務局 〒020-0124 盛岡市厨川3-1-4
TEL・FAX 019-641-5911

「いわて教育の日」推進協議会

設立十周年記念事業

記念式典
記念誌発行
記念祝賀会

十一月二十九日(日)、当協議会の設立十周年を迎えた記念式典・祝賀会が「サンセール盛岡」で、ご来賓や招待者をお迎えし、各構成団体から多数の出席を得て、百二十名の参加により盛大に開催された。式典では小嶋会長の式辞に続き感謝状贈呈、来賓祝辞の後、達増知事から「宮沢賢治からはじめる幸福論」の演題で記念講話が行われた。

記念式典式辞(要旨)

「いわて教育の日」推進協議会
会長 小嶋久人



式辞を述べる小嶋久人会長

私どもの「いわて教育の日」推進協議会は平成十七年四月十三日に設立されましたが、今年度はお蔭様で、設立十周年を迎えることとなりました。これも、偏に県教育委員会をはじめ

市町村教育委員会の皆様、並びに関係団体、関係各位の温かいご指導・ご支援の賜物でございます。衷心より感謝申し上げます。近年、児童生徒の虐待・いじめ等の事件発生が相次ぎ全国的に憂慮される状況が見られるようになり、教育尊重の機運を高めて、国民挙げて子どもの教育の大切さを考え、その振興を期することが喫緊の課題となり、「教育の日」の制定が叫ばれるようになりました。

当時の岩手県公立学校退職校長会は、このことこそ、本県教育振興上の最も重要な課題と捕らえ、平成十二年度から、組織的・精力的に、この「いわて教育の日」制定推進の活動に取り組んで参りました。

そして、賛同の団体が四十三団体となった平成十四年に開催した、「いわて教育の日」制定推進協議会設立総会で、会長に佐々木竹夫準備委員長が選任され、役員や事務局体制が整備されたのであります。

当時、元県議会議長であられた佐々木俊夫先生のご理解とご支援を賜り、条例案が議員発議で平成十七年二月議

会に上程され、念願の「いわて教育の日」に関する条例が全会一致で可決成立され、年度初めの四月一日施行となりましたことは、誠に欣快に堪えないところであります。

設立十周年を迎えたこの時にあたり、私どもは、これまでの歩みを顧み、本協議会の活動推進に尽力された先輩とご指導ご支援を賜った関係機関・団体に対し、敬意と感謝の誠を尽くし、「いわて教育の日」の真の実現による、望ましい教育風土づくりを推進し、本県教育の一層の充実と発展に寄与して参りたいと存じます。



記念式典参列の皆様

「みんなで推進」いわて教育の日」第二十三号(平成二十八年一月十五日発行)

「いわて教育の日」制定十周年記念

平成二十七年「いわて教育の日」のつどい

～みんなで育む 学びの場いわて～

十一月二十六日（木）制定十周年を記念した「いわて教育の日」のつどいが県民会館大ホールで開催された。

県内の教育関係者や児童生徒・県民約千六百人が参加して「はじめを許さない社会をつくる宣言」や講演、郷土芸能、合唱を加えた交響曲の演奏等が行われ、教育の大切さや子供たちの育成の在り方を考えた。

第一部 開会行事

主催者あいさつ（要旨）

岩手県知事 達増拓也

十一月一日を「いわて教育の日」と定めてから十周年の記念の年を迎えました。本日のつどいに、このように多くの方々の御参会をいただき、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災津波から四年八カ月余りが経過しましたが、岩手県では本年を「本格復興邁進年」と位置付け、関



岩手県知事 達増拓也氏

係機関との連携の下、オール岩手で復興に取り組んでいます。

復興を成し遂げ、ふるさと振興を進めていくためには、人材の育成は欠かせません。将来の岩手を担う子どもたちに「生きる力」をしっかりと身に付けさせ、社会で輝く産業人材や地域づくり人材を育成することは特に重要であり、教育に期待される役割はますます大きくなっていきます。

また、岩手県では、ここ二年、いじめを一因として中学生が自ら命を絶つという痛ましい事案が発生しており、いじめ問題への対応の見直しが進んでいます。

県では、本年四月に新たに設置した総合教育会議の場などを通じ、より一層教育委員会との連携を深めながら、岩手の教育振興を図りたいと考えております。

本日のつどいが、御参会の皆様にとって、本県教育の在り方を改めて考える契機となることを期待するとともに、皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げます。挨拶いたします。

岩手県教育委員会

委員長 八重樫 勝

本年は、平成十七年に「いわて教育の日」を制定してから、関係の皆様方の努力により、十年目の節目を迎えました。これまで、多くの皆様の多大な御尽力により、本県の教育が一步一歩前進していることに、心から感謝申し上げます。

しかしながら、昨年、今年と、いじめに関連して中学生が命を失うという誠に痛ましい事案が発生しました。皆様には、御心配や御迷惑をおかけし、誠に申し訳なく、心からお詫び申し上げます。

私も県教育委員会といたしましては、こうしたいじめ問題への対応のため、児童生徒に自他の命の大切さを訴えるメッセージを届けるなど、命を大事にする教育の推進に力を入れて参りました。

本日のつどいにおいても、御参会の皆様とともに、「子どもたちの命を守り、いじめを許さない社会をつくる宣言」を採択し、いじめのない職場、いじめ



岩手県教育委員会 八重樫勝委員長



「教育の日」のつどいに参会された皆様

のない地域、いじめのない社会を構築する礎にして参りたいと考えております。

また、学校現場においても、いじめのない、さわやかな学校づくりに向け、教職員、生徒が丸となって取組を進めておりますので、皆様の御理解と御協力、温かい見守りを賜りますようお願い申し上げます。

本日のつどいを機に、多くの県民の皆様、教育への関心をさらに深めていただき、学校、家庭、地域が一体となって本県教育の振興を図って参りたいと考えております。

県民の皆様の一層の御協力をお願い申し上げます。挨拶いたします。

第二部 児童による発表

田野畑村立田野畑小学校
郷土芸能菅窪鹿踊「ほらがえし」



ステージいっぱい勇壮に舞う田野畑小学校児童の皆さん

菅窪鹿踊（すげのくぼししおどり）は、岩手県指定無形民俗文化財に指定されており、本物の鹿に見立てた鹿頭をかぶり、野生の鹿のように勇壮に舞う芸能である。
昭和五十七年から菅窪鹿踊保存会による小学生への保存伝承活動が始まり現在にいたっている。
発表の「ほらがえし」は、菅窪鹿踊十一種類のうち、はじめに踊られる勢いのいい踊り。四十六年、十九名の児童が見事に踊り、称賛の拍手が送られた。

子どもたちの命を守り、
いじめを許さない
社会をつくる宣言

盛岡市立上田中学校

宣言（案）を読み上げ、満場の拍手で採択されました。

子どもたちの命は、かけがえのないものです。子どもたちの命が、いじめによって傷つけられることは、重大な人権侵害であり、決して許されないことです。子どもたちには、いじめのない安全で安心の学校や、家庭、地域社会のなかで、学び、遊び、友達と過ごす大切な時間が保証されなければなりません。

しかし、いじめは、すべての学校、すべての子どもたちに起こる可能性があります。岩手の宝である子どもたち



宣言を読み上げる盛岡市立上田中学校

が、いじめにより、人を傷つけたり、人に傷つけられたりすることで、夢や希望を失い、自ら命を傷つけるようなことは、決してあってはなりません。この岩手のすべての人々が、いじめを自分たちの問題としてとらえることが必要です。岩手の子どもたちの心の中に、自他の命を尊重する優しさを育てるため、今こそ、子どもたちと大人たちが力を合わせる時です。

子どもたちの命を守り、いじめを許さない社会をつくるために、「いわて教育の日」制定の十周年にあたり、私たちは宣言します。

- 自他の命の大切さを伝え続け、かけがえのない命を守ります。
- 一人一人の良さを互いに認め、他者を思いやる心を育みます。
- 辛く苦しんでいる人に声をかけ、思いを深く受け止めます。
- 嫌がることをしてはいけません。ぱり言う強い心を持ちます。
- いじめられた子どもは、二度とを、みんなの力で守りぬきます。
- いじめをした子どもには、二度と同じ過ちを繰り返させません。
- 子どもは正しい行動をする勇気を持ち、大人は模範となる行動をします。

平成二十七年十一月二十六日

記念誌の発刊

「本協議会の十年の歴史を顧み、その活動を記載し、尽力・支援くださった各位に感謝し、本会の更なる発展と充実を図るために後世への資料とすることを編成の方針にした。

本会の主な活動は、県が行う「いわて教育の日」の啓発普及と県の推進への協力である。その詳細は、これまで本会が発行してきた情報紙に記述されている。そこで、記念誌の編集にあたり、十周年の歩みが浮き彫りになるよう情報紙を主要資料として引用し、再構成した。

内容は、挨拶・祝辞、推進協議会の設立と歩み、「いわて教育の日」の啓発普及の内容、規約や歴代役員等の本会関係基礎資料で構成した。
A4版六十ページ。本会各構成団体並びに関係機関・団体に配布。



発刊された設立十周年記念誌

「みんなで推進 いわて教育の日」第二十三号（平成二十八年一月十五日発行）

第四部 記念演奏 「イーハトーヴ交響曲」

作曲家富田勲氏が制作した「イーハトーヴ交響曲」が、オーケストラと児童合唱・混声合唱の総勢約百八十名の大編成で幻想的に力強く演奏された。賢治のなじみの曲が随所に現れ、正に岩手のための交響曲であり、合唱もオーケストラも美しい音色で力強く、心に染みる演奏であった。聴衆も余韻に浸って、拍手はなかなか鳴りやまなかった。

制作 富田 勲氏
演奏 いわてフィルハーモニー
指揮 寺崎 巖氏
合唱指揮 太田代 将 孝氏

特別出演
 パーチャル・シンガー 初音ミク
合唱出演校・合唱団
 盛岡市立山岸小学校、花巻市立花巻小学校、桜台小学校、矢沢小学校、宮野目小学校、石鳥谷小学校、東和小学校、湯本小学校、南城小学校、花巻中学校、北上市立飯豊小学校、県立盛岡第一高等学校、盛岡第二高等学校、盛岡第三高等学校、盛岡北高等学校、盛岡南高等学校、イーハトーヴシンガーズ、コールM

曲の構成

一、岩手山の大鷲（種山ヶ原の牧歌）
 児童合唱の「種山ヶ原の牧歌」で始まりホルンの旋律が大鷲を抱く岩手山をイメージさせ、オーケストラが引き継ぎ力強く歌い上げる。
 ♪種山が原の、雲の中で刈った草はどっこさ置いたが、忘れだ…

二、剣舞／星めぐりの歌
 打楽器のみで剣舞の雰囲気導き、男声が強力く歌い出し全パートで剣舞の掛け声を交わし合って盛り上げ、「星めぐりの歌」で歌い収める。
 ♪夜風とどろきひのきはみだれ月は射そそぐ銀の矢波…

三、注文の多い料理店
 パーチャル・シンガー初音ミクが現れ、幻想的に歌う。
 ♪私は初音ミク かりそめのボディ あやしく見えるのは かりそめのボディ…

四、風の又三郎
 又三郎を表す歌を男声で歌い出し、やがて全パートで歌い合う。
 ♪どっどどどどどどど どっどどどどどどど どっどどどどどどど どっどどどどどどど あまいリンゴも 吹きとばせ すっぱいリンゴも 吹きとばせ…

「いわて教育の日」のつどい
 総司会者へのインタビュー
 岩手県立盛岡第三高等学校

「今年の六月、NHK県大会で最優秀賞に選ばれたのが、今日の総司会者として声をかけていただいたのだと、とても嬉しく思いました」

「高校に進んでから本格的に放送に関心をもち、放送部に入りました。母がアナウンサーの仕事をしていましたので、今日の進行についても母



「今日の『教育の日』のつどい」の様子から、私もこのような岩手の教育環境の中で育てられたのかと思う、岩手に生まれてよかったです」

「高校でも『いじめアンケート』には答えています、私の周囲にはいじめはありません。小学生も中学生も高校生も、今日の『宣言』のような行動をとって欲しいと思います」

「将来の夢は、東京でアナウンサーの勉強をし、レベルアップし、岩手に戻って母のようなアナウンサーになることです」

編集後記
 当協議会設立十周年記念行事が十一月下旬に行われましたので、情報紙の前半にその様子を載せました。後半は、県並びに県教委主催の、教育の日条例制定十周年を記念する「いわて教育の日」のつどいの内容を紹介しました。

限られたページ数であることから、編集には苦労が伴いましたが、ようやくお届けすることができました。この記念の節目に出会えたことを共に喜ぶたいと思います。

協賛の御協力を頂きました皆様、厚く御礼申し上げます。

みんなで推進

いわて教育の日

第24号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 小嶋久人事務局 〒020-0111 盛岡市黒石野 2-7-19
TEL・FAX 019-662-5938

平成二十八年構成員全体会議

新たなスタートを迎えて

「いわて教育の日」推進協議会会長 小嶋久人



「いわて教育の日」推進協議会の各構成団体より、代表者の皆様のご参集をいただき、平成二十八年度の総会に当たります構成員全体会議を、開会できましたことは、

誠に有り難く、心より感謝申し上げます。

特に、私どもの「いわて教育の日」推進協議会が、日頃の活動推進に当たり、ご指導ご高配を賜っております岩手県教育委員会教育長高橋嘉行様の代理として教育次長兼教育企画課長菊池透様のご臨席を仰ぎ、親しくご祝辞を賜りましたことは、誠に欣快に堪えないところでございまして、心より感謝と御礼を申し上げます。

五年前の三月十一日、本県は東日本大震災大津波により、沿岸地区は、壊滅的な被害を受けましたが、全国や世界各国からの温かいご支援の下、鋭意、復興に取り組んで参っております。

当協議会構成団体の皆様におかれましても、それぞれの全国組織との連携等により、復興推進に大きな役割を果たされておられますことに対し、心より敬意を表し、感謝を申し上げます。

念願の「いわて教育の日」に関する条例が、県議会で可決成立し、公布・施行されまして、本県で初めて

の「教育の日」が実施されましたのは、平成十七年度でありました。

これを期に、それまでの「いわて教育の日」制定推進協議会を改組し、規約を新たに制定して「いわて教育の日」推進協議会を設立し、昨年度は十周年を迎えたのであります。

私どもは、記念すべき十周年にあたり、これまでの歩みを顧み、今後の更なる発展と充実のため鋭意努めることを誓い、記念事業として記念式典、記念祝賀会を盛大に開催し、記念誌を発刊いたしました。

記念式典に参列された日本教育会岩手県支部事務局長の新沼敏哉様は、「教育における『十年』の意味」と題し、次のように述べておられます。

「日々の教育活動を振り返るときは、月や学期、年単位が効率的である。しかし、教育の歴史や伝統、国や県の教育などを考える時は、十年が最小単位になると思う。人間観や教育観等についても十年単位で時代や社会のニーズ、科学の進歩等のフィルターにかけ、本質を再認識したり、具現化の方策を整備し直したりすることが重要であると思う」(本会情報誌第23号)

誠に核心に迫るご意見であります。十一年目の新たなスタートにあたり、十年の歩みを顧みるとともに本会の目的や活動の在り方を様々なフィルターを通して検討し、本県の教育の充実と発展のために更なる寄与の方策を探りたいと思います。

つきましては、本会構成団体の皆様方から忌憚のないご意見を賜りたく存じます。

今後とも、事業推進へのご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます、挨拶といたします。

「みんなで推進

いわて教育の日」第二十四号〔平成二十八年八月十日発行〕

「いわて教育の日」推進協議会

設立十周年記念事業を振り返って

六月二十一日(火)の構成員全体会議で、本会設立十周年記念事業の経過、実施事業(記念式典、祝賀会開催・記念誌発刊)、記念事業出席者・記念誌配布先・収支決算・監査結果の報告、並びに左記の事業総括が提案され満場一致で承認されました。

1 円滑な事業推進の要因

- (1) 西村倬郎実行委員長のもと、総務・式典・祝賀会、記念誌の各委員会が、業務の推進を共通的に理解し精力的に取り組めたことである。
- (2) 本会各構成団体からの事業推進への多大の協力と支援、岩手県知事・県議会・県教育委員会・盛岡市教育委員会等からも温かい指導と支援を賜ったことである。
- (3) 運営資金が整ったことである。二十四年度から四年にわたる積立金、各構成団体からの協賛金、参事者からの参加費、日本教育公務員弘済会岩手支部からの寄付金等のお陰で見通しある運営ができた。

2 振り返っての全体総括

「いわて教育の日」推進協議会は、設立十周年記念事業の趣意である「十

年の歩みを顧み、本会の活動に尽力された先輩と指導・支援を賜った関係各位に敬意と感謝を表し、今後、本会の更なる発展と充実のために鋭意努めることを誓う機会とする」という所期の目的達成のため結束して推進し、十年の節目に相応しい事業を成し遂げ、多くの成果を挙げることができた。

それは、本会結成に先立っての「いわて教育の日」に関する条例」の制定推進に尽力された先輩の方々、条例制定後に「いわて教育の日」の啓発普及のために鋭意尽力された本会各構成員の方々、本会設立当初から今日まで本会事務局を担当された岩手県公立学校退職校長会歴代役員の方々、さらに本会を大所高所より指導してくださった関係機関、諸団体の温かいご支援の賜物であり、皆々様に感謝と敬意を表するものである。

この結果と成果を今後の本会の活動に生かすとともに、「いわて教育の日」の真の実現による、望ましい教育風土づくりを推進し、本県教育の一層の充実と発展に寄与することを誓うものである。

地域に育てたい教育風土

奥州市文化振興財団
理事長 菅原 義子



我が家のリビングには、岩手教育の日ポスター「大人が変われば子どもが変わる」が貼られており、時々食後の話題にしている。「本当に難しい」というのが本音である。変わるためには本気で己を知らねばならないし、子どもについては尚更であるからである。

ところで今の自分の立場には、地域にどんな教育風土をつくるかという大きな課題がある。もう四年間も文化会館・総合体育館・歴史センターを市民のために経営する団体の理事長をしているのに奥州市の歴史・文化・スポーツの振興は見えていない。現状打破のために、まず「市民の感動の共有と子ども達を豊かに未来に翔ばたかせる」という理念をつくった。事業は依頼されるのを待つのではなく理念に合うものを創り、日本中を探しまわることとし、財団と市民が声を掛けあって、皆に味わってもらい、感動を共有するよう仕組むこととした。子ども達を育むためには一緒に鑑賞し活動出来るものを学校と共に考え、選択し、豊かな子ども達を目指すこととした。そして、まずは職員が泥の中に入ることを厭わず、三万株のあやめを育て胆沢城跡地にあやめ苑をつくる活動をした。

この頃、財団の職員が変われば、奥州市の歴史・文化・スポーツの振興も不可能ではないと実感している。

「いわて教育の日」に

岩手県中学校長会
会長 菅原 正弘



「広がるネット依存」「やめたくてもやめられない」といった新聞記事をよく目にします。動画や交流サイト、ゲームに夢中になり、スマートフォン等を手放せない子供や大人が年々増加の傾向にあると記されています。

また、睡眠や食事の時間を削ってネットにはまり、体調不良や不登校になったり、精神面への悪影響が懸念されています。

日進月歩のネット社会をどのように生きていくのか、そのためには学校や社会では何を指導すべきか。子供達の生活習慣や交友関係、そして家庭学習に大きな影響を及ぼしているこのような課題にどう取り組むべきなのか。

教育振興運動の全県共通課題は、「情報メディアとの上手な付き合い方」であり、昨年度から五年計画で推進されています。学校や地域の懇談会でも話題の中心となっており、保護者をはじめ、地域や関係の方々があの手この手の対策にのり出しています。

「いわて教育の日」推進協議会の構成員である岩手県中学校長会としても、この課題の解決に向けて組織的に取り組むと共に、本県における教育の充実発展に努めてまいります。

みんなで推進

いわて教育の日

第25号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 小嶋 久人

事務局 〒020-0111 盛岡市黒石野 2-7-19
TEL・FAX 019-662-5938

【学校からのメッセージ】
皆さんこんにちは！私たち山王小学校三年生二十五名は、みんな元気に勉強や運動をがんばっています。今年も希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が行われます。山王小学校では、昨年と今年の運動会の開会式で、全校のみんなで「わんこダンス」を踊りました。「そばつち」や「とふつち」も登場して一緒に踊り、会場を大いに盛り上げることができました。

「いわて教育の日」のつどいで、大好きな「わんこダンス」を県民会館の皆さんの前で踊ることができると聞いて、クラスは大歓声！八月から少しずつ練習を重ねて、この日を迎えました。希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が大成功！全国からいっしょやる選手の方やお客様にも「わんこダンス」を踊っていただけるときに一生懸命がんばります。



わんこ兄弟たちと一緒に踊る山王小の皆さん

◇小学生による発表
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会公式ダンス
「わんこダンス」
盛岡市立山王小学校三年生

【学校からのメッセージ】
こんにちは。盛岡誠桜高校バトントワリング部です。

私たちは、高校からバトンを始めたメンバーが多いですが、毎日の積み重ねを大切にしながら、みんなで協力しながら練習に取り組んでいます。昨年の十二月には九年連続で全国大会に出場することができました。今年も全国大会に出場することを目指して、技術や精神力を磨く努力をしています。

本日は、九月二十五日に奥州市総合体育館で行われる県大会で披露する演技をご紹介します。「VOICE」と題して、様々な思いや声をバトンで表現したいと思っております。このような発表の機会を与えてくださったことに感謝し、感動を与えられるような演技をしたいと思っております。



全国レベルの演技を披露する誠桜高校の皆さん

◇高校生による発表
「バトントワリング
—VOICE—」
学校法人盛岡誠桜学園 盛岡誠桜
高等学校 バトントワリング部



総合司会を担当した
県立盛岡第一高等学校

「みんなで推進 いわて教育の日」第二十五号（平成二十八年十二月二十日発行）

「いわて教育の日」の「こども」参加について

「生きる力」を育むために

日本ボーイスカウトいわて連盟

理事長 末 永 正 志



いじめや自殺など少年期、青年期の問題が社会の関心と注目を集めている今、よりよい方向に導くための地域社会の教育力が問われています。

ボーイスカウトは、健やかな子どもを育成する世界運動です。様々な野外教育活動を通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、その進歩を促し、社会に役立つ人間に成長することを願っています。

野外活動では、青少年の冒険心や好奇心をキャンプ生活の自然観察、グループでの野外活動ゲーム等で発揮させ、「遊び」を通して青少年の自立心や協調性、リーダーシップ等を身につけ、生命を尊重する心、仲間と協力する心、モラルや正義感、自然や美しいものに感動する心など、子どもたちの「生きる力」を育みます。

スカウト活動が社会に果たす役割は大きく、社会の期待に応える責任と使命があるものと考えています。過日、本県で開催された「希望郷いわて国体」でも、実行委員会のメンバーとして、本連盟の長谷川大樹くんが開会式で国

体旗の保持・行進を担うなど、団員が様々な場面で活動しました。

● ボーイスカウト運動の特徴

- 一、青少年の自発的活動であること
- 二、青少年が、誠実、勇気、自信、及び国際愛と人道主義を把握すること、健康を築くこと、人生に役立つ技能を体得すること、社会に奉仕できるための人格、健康、技能、奉仕を四本柱とすること。
- 三、幼少期から青年期に渡る各年令層に適應するよう、年齢に応じた部門があり、それぞれのプログラムが一貫していること。

『教育の出発点について考える』

一般法人 岩手県PTA連合会

会長 五十嵐 のぶ代



今年、四十六年ぶりに本県で第七十一回岩手国体が開催されました。一九七〇年前後に三種の神器と呼ばれた3C（カラーテレビ・クーラー・カー）は、今では各家庭にあっ

て当たり前のものになり、たった五十年ほどで家庭を取り巻くメディア（情報の記録・保管・伝達）は急激に進化しました。

また、近年は女性の社会進出も進み、イクメンと呼ばれる育児に率先して関わる男性も増え、ベビーカーを押し、公園で子どもと一緒に遊ぶお父さんの姿がみられるようになりました。

家庭で支え合って子育てをしていく様子は微笑ましい限りですが、中には核家族に伴う育児の孤立化やSNSなどといった新たなコミュニケーションツールを通じた子どもたちを取り巻く深刻な社会問題などを耳にする時代となりました。

PTA活動の大きな目標の一つに、社会教育と家庭教育の拡充が掲げられております。このような時代だからこそ、PTA活動を通して保護者が学校や地域と関わりを持つことが子どもた

合唱のまちを つくる子どもたち

千葉 彰 彦

各地からの便り



東日本各地区及び全国で活躍している優れた合唱団が一堂に会し、共に歌い共に鑑賞し、音楽の創造をめざすことを目的に合唱のまち一関で、恒例の合唱祭が今年で二十七回目を迎えました。

一関文化センター・大ホールには、「NHK東京児童合唱団」や「慶応義塾ワグネル」「不来方高校」など全国トップレベルの六団体が出演しましたが、大東中学校の全校生徒百四十六名も前日に東京児童合唱団と交流会を開き、当日に合同でその成果を披露しました。会場は、地元の中生や合唱愛好者そして一般市民など千二百名の聴衆で溢れ、招聘団体と地元合唱団の四百名

ちの笑顔をつくることに繋がると言えるでしょう。

社会の大きな財産である子どもたちの教育のすべての出発点は、家庭にあると言えます。家庭の中で我が子とどのように向き合っていくのかは、親としての永遠のテーマでありますが、保護者として多くの人と関わる姿を子どもたちに見せていくことが、心優しく思いやりのある人間に育つきっかけとなると考えます。

による「合同合唱」や舞台と観客が一体となったフィナーレの「大地讃頌」は、参加した一人ひとりの心に素晴らしい感動を呼び起こしました。

このように地域に合唱・音楽を育む風土が醸成されてきた背景には、市内の小中学校すべてで合唱活動に取り組み、PTAや地域の活動も含めて、市内の各地域にコーラスグループなどがつくられ、日常的に音楽活動をおこなっていることではないかと思えます。

そして、一関ではその発表や交流の機会が、学校参加の音楽発表会に限らず、民間の教育機関・団体によるものが数多くあり、それに幼児を含めた多くの子どもたちが参加・出演しております。こうして、毎年、十一月の「いわて教育の日」の前には、一関地方のあらゆるこちらの施設から、子どもたちの素晴らしい歌声と鳴りやまない拍手が聞こえてくる季節が訪れるのです。【退職校長会一関西地区会事務局長】

みんなで推進

いわて教育の日

第26号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 佐瀬 壽朗事務局 〒020-0111 盛岡市黒石野 2-7-19
TEL・FAX 019-662-5938

本県の教育の充実と発展に寄与

「いわて教育の日」推進協議会

会長 佐瀬 壽朗



本会の初代の佐々木武夫会長(平成十四年〜二十年)は、「いわて教育の日」に関する条例(以下条例)の制定、本会の設立に陣頭指揮をとられた大功労者です。

二代目小嶋久人会長(二十一年〜二十八年)は、事務局長、副会長として佐々木会長を補佐され、その後会長に就任し、本会のコンセプトを明確に示して牽引され、昨年度をもって退任されました。今年度の構成員全体会議で、不肖、私が会長に選出されました。これまでの活動を停滞させぬよう、努めて参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

本年度の活動にあたり、本会の特徴のいくつかを確認し合いたいものです。

◇本会は、県内の四十六団体と一個人によって構成されており、佐々木元会長、小嶋前会長は、「岩手の教育振興運動が展開されていたからこそ、広範で多彩な団体の加入による、他県では見られない強固な組織に発展してきた」と述べておられます。

◇本会は、設立以来、条例に基づいて県が行う事業の推進に協力し、本県の教育の充実と発展に資することを目的に活動を継続しております。「教育の日」のつどいには、県内市町村、市町村教育委員会とともに共催の立場で列しております。他県では本会のような推

進協議会が、「教育の日」の事業を主催し、知事や教育長が招かれて祝辞を述べているという事例もあります。

◇県が行う事業への協力は、普及啓発活動です。多くの県民の方々が本会や県の事業に関心を持たれ、理解をいただくこと、そして、その事業の状況を記録として遺すことを趣意に、情報誌を年二回、五千部を発行しております。特に県主催のつどいの紹介記事は、参加出来なかった方々から感謝されております。

◇経費は、構成団体からの会費と他団体からの助成金で賄っています。県からの補助金交付はありませんが、他県では交付されている例もあります。

◇事務局員は、設立当初より退職校長会の常任理事に委嘱しております。常任理事の業務に加えての務めですが、快く従事されています。

◇このように、本会は、常に県との連携を密にしながら事業を進め、そのことが本県教育の充実と発展に寄与していると自負している次第です。本会設立以来の歴代役員、構成団体代表者、そして事務局担当の方々のご尽力の賜物です。

高橋嘉行県教育長は、「毎日が『教育の日』です。子どもたちはこれからの社会の形成者であり、岩手の宝、日本の宝です。宝を育成するためには、学校、家庭、地域社会、そして行政の常なる連携が不可欠です。十一月一日は、その『教育』を考える契機としての「いわて教育の日」のつどいなのです」と熱く述べておられます。

本会は、これからも条例に基づいて県が行う活動の推進に協力し、本県の教育の充実と発展に寄与して参ります。

つきましては、本会構成員の皆様方からご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「みんなで推進

いわて教育の日」第二十六号(平成二十九年十月一日発行)

帆にむけて 風をおくる

盛岡市教育振興推進委員会

会長 星野勝利



パソコンの画面に文字を打ち込んでいますと、時代の変化を強く感じます。ガリ版や鉄筆で苦労したことなど、夢の世界のことに思われます。

一昨年の「いわて教育の日」の記念行事で「イーハトーブ交響曲が演奏されました。演奏とともに、初音ミクが「出演」しました。会場のこともたちにとっては、日常的な楽しい仕掛けの一つに過ぎなかったかもしれません。ガリ版と鉄筆の時代に生きた者にとっては、新鮮な驚きでした。

リオ五輪の閉会式でも、同じようなことがありました。次期開催地としての東京を紹介する映像の中で、ドラえもんやマリオが姿を見せました。地球の反対側の東京から、リオに直結する土管を、ドラえもんがつくり、その土管を、マリオが超高速でくぐり抜け、一気に会場に向かう、という趣向でした。時間や空間を軽々と超えていくこの仕掛けに、いま現在の世界の状況がみごとに集約されているように思われました。

文明は普遍、文化は特異、といわれます。この基準に照らしますと、いまの世界は、圧倒的に文明の世界です。パソコンやスマホは世界中に遍在しています。文字通り「文

明の利器」となっています。初音ミクや、ドラえもんや、マリオの姿は、この世界の象徴のように思われます。ことばをかえれば、グローバルイズムの世界、です。

この状況への対応が、教育の世界でも、求められています。小学校英語の問題は、その一例です。対応のあり方は、簡単ではありません。しかし、歴史を振り返りますと、わたしたちにとってこの問題は、すでに体験済みのもので、やまとことば（和語）の中で、長いこと生きてきた上代の日本人は、当時の最先端文明としての中国の文物やことば（漢語）と向きあったとき、実に柔軟に、創意工夫を加えつつ、これを受容しました。結果として、記紀万葉が記され、ひらがな・カタカナが生み出され、現在の日本語（国語）の基礎となりました。

外国語の位置づけが気になり、小学校国語の教科書を、何冊か手にしたことがあります。その中に、表紙に記された教科書名が「国語」ではなく、「ひろがる言葉」となったものがありました。裏表紙には、航海する帆船の写真とともに「ひろがる ほ ふくらませて 船は 進む」ということばが、大きく記されていました。ふくらむ「ことば」について学ぶこともたちへの、深い配慮が感じられました。グローバルイズムという波の上を、こともたちを乗せて進む帆にむけて、柔軟で、さわやかな風を、多方面から送り届けること。教育の世界では、いま現在、このことが広く求められていると思われます。

県教委への表敬訪問

過日、当協議会の会長に就任した佐瀬壽朗会長以下三名が、県教育委員会を表敬訪問しました。

当日は、高橋嘉行教育長、教育企画室の鈴木優企画課長等の方々と親しく懇談することが出来ました。

高橋教育長からは、「教育の日」のつどいに対する当推進協議会からの支援に対する感謝の言葉をいただきました。限られた時間でしたが、高橋教育長を囲んで和やかな雰囲気の中での懇談となり、実り多い充実した訪問となりました。



高橋嘉行県教育長（左二人目）への表敬訪問

みんなで推進

いわて教育の日

第27号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 佐瀬 壽朗

事務局 〒020-0111 盛岡市黒石野 2-7-19
TEL・FAX 019-662-5938

【学校からのメッセージ】
私たち上野中学校吹奏楽部は、三年生が十三名、二年生が十六名、一年生が十六名の計四十五名で活動しています。演奏技術の向上はさることながら、聴いてくださる方々に元氣と感動を届けることができる演奏を目指しています。
今年のコンクールでは、岩手県大会にて九年連続金賞を受賞し、七年連続八回目の東北大会出場を果たし、三年続けて金賞を受賞することができました。この大きな成果は、私たちの力だけでは決して叶えることはできませんでした。私たちはコンクールを終えてから応援してくださる全ての皆様に感謝の気持ちを普返し(恩返し)するべく、日々の練習に励んでいます。
本日は、お聞き苦しい点もあるかとは思いますが、部員一丸となって精一杯の心を込めて演奏します。音楽の力を少しでも皆様にお届けし、一緒に音楽を楽しむことができれば幸いです。どうぞ、ごゆっくりお聞きください。



◇中学生による発表
吹奏楽の演奏
テーマ「Music Forever」
北上市立上野中学校 吹奏楽部

【学校からのメッセージ】
鬼剣舞は、北上地方の農民に伝承する民俗芸能で、今から約三百年前に始まったとされています。念仏によって人々を救い、「ヘンパイ」という足踏みによって大地の悪霊を退散させ、天下泰平、五穀豊穡の祈りが込められています。鬼面には角がなく、仏に帰依した鬼を表しています。面の色は白、青、赤黒の四色で白面がリーダーです。
本校では、地域に恵まれた鬼剣舞の伝承活動を国指定無形民俗文化財「岩崎鬼剣舞」の指導者の方々からご指導をいただき、八十二名の部員で活動しております。日頃は老人保健施設の慰問や各種イベント、国際交流活動などに参加しています。
また、全国高等学校総合文化祭では、文部科学大臣賞(最高賞)を一回、文化庁長官賞を三回受賞しました。



◇高校生による発表
郷土芸能
鬼剣舞「一番庭他組み踊り」
県立北上翔南高等学校 鬼剣舞部



総合司会を担当した
県立黒沢尻北高等学校

「みんなで推進 いわて教育の日」第二十七号(平成二十九年十二月二十日発行)

「いわて教育の日」のつどいに参加して

『地域とのつながりを考える』

盛岡市立下小路中学校

教育振興協議会

会長 塚澤 成順



「いわて教育の日」のつどいに参加して、いろいろと感じ、考える良い機会になりました。

第一部における教育表彰では、「多年にわたり」、「やはり継続的な活動が重要なのだと再認識。二部では子ども達のすばらしい笑顔に感動。三部では講師の先生の話に頷き、一生懸命メモを取っている方々が印象的でした。今年度、盛岡市教育振興運動のいくつかの地区集会に参加する機会に恵まれ、他校の活動について知ることができました。

それぞれの校区で特色のある活動がある中で、「子ども達の地域活動」がたくさん行われていました。地域の施設の清掃活動やお祭りでの手伝い、吹奏楽の演奏、などなど。こうした地域で活動する場が多いことは自己肯定感の高揚に効果的なのでしょう。

教育振興運動は、子ども、家庭、地域、行政が一体となって活動することに意味があります。今は子どもが学校行事

として地域と家庭をつないでくれないですが、各家庭とうまくつながっていない地域も多いのではないのでしょうか。PTAの卒業とともに、地域とのかわりを減らしている。働き方や子どもを取り巻く環境が変わる中、いずれ地域を担ってほしい子ども達、その親世代をどう地域に取り込んでいくかが課題になっていると感じています。将来、子ども達が地域に戻ってきたときのために、今やるべきことは何かを考える必要があります。

「いわて教育の日」のつどいに参加して

滝沢市社会教育委員

会長 藤田 重治



「いわて教育の日」のつどいに参加して、いろいろと感じ、考える良い機会になりました。

今年度の「いわて教育の日」に出席する機会をいただき、改めてこの日の価値を感じる事ができました。笑顔一杯の上野中学校の吹奏楽部員による演奏は、一人ひとりの思いが快い音色として表現されており、部員のねらいとする元気と感動を与える演奏をしようとする思いが十分伝わってきました。手拍子にも知らず知らずのうちに力が入り、奏者と聴衆が一体となって感動を共有することができました。また、北上翔南高等学

校の「鬼剣舞」は、長きにわたり民族芸能として受け継がれており、先人の思い、地域の人々が平穏で安寧な日々を過ごすことの願いを剣舞の中に見ることができました。

両校の発表に感動と感銘を受けながら、見終えた後に思い起こした詩がありました。「光る 光る すべては光る 光らないものはない 光らないものは 他から光を うけて光る」。このようにすばらしい輝きを放つ演舞、演奏はどこから、どのような光を受けて今日の発表となったのだろうか、と言うことを知りたいと思ったところです。

梶田徹一先生からは、講演の中で、世界に通用する学力の定着を図るために深い学びとともに、学んだことを使いこなす人間を育て、子ども達に自信とやる気を植え付けることが大切と話されました。社会教育に携わる立場の人間として、学校教育と地域社会の連携の中でマルチ的な教育実践で定着を図る必要性を感じたところです。

「いわて教育の日」のつどいに参加して

公立学校退職校長会和賀地区会

副会長 齋藤 康



「演奏技術の向上はさることながら聴いてくださる方々に元気と感動を届けられる演奏を目指します」と

北上市立上野中学校四十五名の吹奏楽部員たち。

高齢者の会に招かれて演奏したとき「わがらねえ曲ばかりでおもしろくねえ」との声を聞き、地域に認められ愛される演奏を目指し、懸命に努力したことで、県大会九年連続金賞、東北大会三年連続金賞受賞、そして全国大会出場へとすばらしい成績を挙げ、この会場で聴く人も演奏している部員ともに喜びを感じながら、演奏している姿に感動しました。

北上翔南高等学校鬼剣舞部は、旧北上農業高等学校跡地に開校したこともあって、農業高校にあった鬼剣舞を引継ぎ、剣舞い発祥の地「岩崎鬼剣舞」保存会の指導を受け、年に五十回の老人施設慰問や各種イベント等で活動し、県内外に活動の範囲を広げています。

市内の中学校の中には、男子生徒全員が体育祭で鬼剣舞を演舞しているところもあり、郷土芸能の伝承活動が地域と一体となって取り組んでいることに喜びを感じます。

梶田徹一先生が講演の冒頭に「二校の発表を鑑賞しましたが、どの生徒も、表情がとても豊かで、鬼の面をとったときの生徒たちの笑顔が輝いていました。自信を持っていました。これが教育なんです。涙がでてきました」と感想を述べられていました。

「いわて教育の日」のつどいに参加して、本当にすばらしい、充実した一日を過ごすことができました。

みんなで推進

いわて教育の日

第28号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 佐瀬 壽朗事務局 〒020-0111 盛岡市黒石野 2-7-19
TEL・FAX 019-662-5938啓発普及活動の
着実な推進と注目点

「いわて教育の日」推進協議会

会長 佐瀬 壽朗



「教育の日」の条例制定は、平成十年以降、※全国連合退職校長会（以下、全連退）が中心となっており、各都道府県退職校長会を取り組み、各自自治体に働きかけ、その結果として全国36都道府県181市町村で制定されています。

岩手県では、岩手県公立学校退職校長会が中心となり「いわて教育の日制定推進協議会」を結成し、二年半にわたり県・県議会・県教委と折衝し、平成十七年に県条例が制定されました。その運動の基盤となったのは、岩手の教育振興運動が長年にわたって醸成してきた「岩手の教育風土」であったと伝えられています。その県条例に基づいて、毎年、別項のように「いわて教育の日」のつどいが開催されてきました。当日は、県議会議員が出席され、多くの機関団体の関係者、県民の方々が参加されます。圧巻は、児童生徒の発表で、その素晴らしい発表に感動を受けたとの感想が数多く寄せられています。他県の「教育の日」の事業に比べ、限られた予算にもかかわらず、優るとも劣らない「いわて教育の日」のつどいが盛会に演出されています。県教委事務方の創意工夫の賜物です。

本会も共催の立場で加わっています。本会が十数年にわたって着実に推進してきた「教育の日」の啓発普及活動に、県教委から感謝の言葉をいただいています。今年も、本県のみならず他県の「教育の日」の事業の実態や推進協議会の活動状況を紹介し、啓発普及に努めて参ります。

岩手県では、向後、十年間を見据えた次期総合計画の策定に併せ、岩手教育振興計画を策定されると伺っております。

高橋嘉行県教育長は、「岩手の子どもたちの『確かな学力・豊かな心・健やかな体』を備えた調和のとれた人間形成に向け、『岩手だからこそできる教育、岩手だからこそやるべき教育』という視点を織り込む」と述べておられます。本会の今後の活動の方向を構想するためにも、「いわて教育の日」の事業の意義や「五者連携」による教育振興運動の推進」がどのように盛り込まれるのか、注目して参ります。

「教育の日」の条例制定を中核として全国に呼びかけてきたのが全連退です。全連退では、平成二十七年から「国民挙って教育の在り方を考える日」として、国民の祝日「教育の日」の制定を図る活動を推進し、今年度も林芳正文部科学大臣へ陳情し要望書を提出しております。

世界に先駆けて、わが国に国民の祝日「教育の日」が制定されれば、学校教育、家庭教育、社会教育などあらゆる教育営為に国民の関心が高まり、日本の教育の更なる振興が図られることと確信しての活動とこのことです。全連退の今後の活動を注目して参ります。

※全国連合退職校長会
全国47都道府県の幼稚園長・小学校長・中学校長・高等学校長・特別支援学校長の退職者約9万人が加入（岩手県からは小・中公立学校退職校長会の2300名が加入）し、校長や園長のOBとして、教育関係機関・団体と連携協力し教育の振興に寄与する活動を行っている。

みんなで推進

「いわて教育の日」第二十八号（平成三十年十月一日発行）

幼児期における教育・保育の
推進について

岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
会長 坂本 洋



子どもが初めて、
出会う学校として
学校教育法第一条
に示される幼稚園
ですが、このところ
状況が大きく変化しております。

四年前の子ども子育て支援関連三法の施行で、新設認定こども園が学校教育と児童福祉法保育所機能を併せ持つ施設として明示され、保育所でも三歳以上は幼稚園教育要領と同一の教育を行い、その内容は、要録として小学校へ送付することが義務付けられております。

この状況の中で、乳幼児期における教育・保育の推進で大きな変革に直面しております。その一つが幼稚園教育要領の十年ぶりの改訂実施です。

また、保育所保育指針も全面改訂になり、教育・保育内容につき学校教育との十分な摺合わせ整合が行われ、乳児に対しても養護と教育が一体となった保育として、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てることが打ち出されました。

義務教育就学前の乳幼児期の教育・保育の一体的営みの重要性が統一され、

三歳以上の幼児については、次代に必要な資質や能力として、①知識理解・技能の習得、②思考力・判断力等の育成、③学びに向かう力等の育成を柱に添え、主体的な活動を中心とした対話活動による深い学びを目標に掲げ、保幼小の接続を今まで以上に深めることが求められております。

更には、幼児教育・保育の無償化が国税投入により行われることが決定されたことにより、一層の専門性、資質向上が課題となり、携わる職員の今までの以上のキャリアアップ研修が義務付けられる体制を準備することだと考えます。

教育における「不易と流行」とは

岩手県教職員組合
中央執行委員長 佐藤 淳



先日、ある教育
冊子で最近の大学の
講義風景について
の記事を目にし
ました。講義の途

中や終了時、学生の多くが板書をスマホでパシャパシャ撮影するというのです。先生が「ノートは取らないのか？」と聞くと、「ノートの取り方がわからない」とのこと。

これを読んで少々反省気味に考えたのは、これは学生たちの責任だけではないのではないのかという事です。もしかしらば、授業の「効率」や「視覚効果」を優先して、「穴埋めプリント」や「IT教材」を多用し過ぎてはいないか。そしてその結果、生徒たちがじっくり話を聞いて、思考や判断をし、まとめてノートに書くという大切な機会を少なくしてはいないかという事です。

私が一九八一年に大学を卒業して講師として勤めた学校は、まだ「ガリ切り」で印刷物を作成していましたし、もちろん、ワープロやパソコンも、コピーさえありませんでした。地理の授業の最初には、まず黒板にチョークで下手法世界地図を描き、それを生徒達がノートに写すのを待つて授業を始めました。現在と比べると、決して便利だと言えませんが、それでも時間の流れと人の作業のスピードが自然に調和していたようにも思います。

科学技術の発達・進歩によって、私たちは何を不得て、何を失ったのでしょうか。便利さを否定しません。しかし、安易な授業の「効率化」は、生徒たちが自由に発想し、まとめたりする力の成長の場を奪ってはいないでしょうか。教育における「不易と流行」をしっかりと考えなければならぬと先輩が話してくれたことを思い出すこの頃です。

公益財団法人
日本教育公務員弘済会岩手支部
より研究助成金を贈呈される

公益法人日本教育公務員弘済会岩手支部より、本会へ十万円の教育研究助成金が交付され、八月二十二日に開催された県公立学校退職校長会事務局長会議の席で支部長の太田代政男氏から、佐瀬壽朗本会会長が受領しました。

また、県公立学校退職校長会からも本会へ「いわて教育の日」活動推進費として五万円が交付されました。



日本教育公務員弘済会岩手支部長太田代政男氏より研究助成金を受領する佐瀬壽朗推進協議会会長

みんなで推進

いわて教育の日

第29号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 佐瀬 壽朗

事務局 〒020-0111 盛岡市黒石野 2-7-19
TEL・FAX 019-662-5938

【学校からのメッセージ】
 私たち黒沢尻北小学校合唱部は、四、六年生の歌うことが大好きな仲間が集まって活動しています。今年度の部員は、五十七名となりました。黒沢尻北小学校は音楽活動が盛んで、合唱部は全校の先頭に立ち、毎日歌声を校舎に響かせています。今年度のコンクールでは、NHK全国音楽コンクール七年連続八回目の東北大会音楽出場を果たし、東北大会では銀賞を受賞することができました。また、全日本合唱コンクール県大会では金賞、子ども音楽コンクールも九年連続東北大会に出場し、今年度は二回目の最優秀賞を受賞し、全国大会に出場しました。このような私たちの活動を、いつも応援してくださっている方々がたくさんいます。今日は、私たちが音楽から得ている喜びを歌声に込め、感謝の気持ちを聴いてくださる方々に届けたいです。



さまざまに編成を変えてパフォーマンスを演じながら息の合った見事な合唱を響かせた黒沢尻北小の皆さん

◇小学生による発表
 合唱「あいや節幻想曲」
 「群青」 他
 北上市立黒沢尻北小学校 合唱部

【学校からのメッセージ】
 鹿踊り部は、花巻市東和町の「春日流落合鹿踊保存会」の御指導を仰いで始まり、創設六十目です。今年度は、三年生十四名、二年生六名、一年生四名で活動し、地元の祭りや老人施設の慰問など年間約三十回の公演を行っています。八月に行われた全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門では、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞しました。鹿の飼養から始まり五穀豊穡・天下泰平を祈願されるようになったと言われています。竹に幣束を巻いた長さ三メートル弱の「ささら」を背負い、総重量約十五キログラムの装束をまとって、太鼓を打ちながら、謡い、踊ります。本日は、本来八人で踊る基本の踊りの「二番庭」を六人で踊ります。



全国高等学校総合文化祭最優秀賞・文部科学大臣賞の謡いと踊りを披露する花巻農業高校の皆さん

◇高校生による発表
 花巻春日流鹿踊「一番庭」
 県立花巻農業高等学校 鹿踊り部



両校の出演者の皆さんの素晴らしい発表に感動し、満席の参加者から惜しみない拍手が送られました。



総司会を担当した
県立盛岡第一高等学校

「みんなで推進 いわて教育の日」第二十九号（平成三十年十二月二十日発行）

「いわて教育の日」のつどいに参加して

「いわて教育の日」のつどいに参加して

岩手県議会議員

小西 和子



十数年前まで、小学校の教員をしてきたわたしにとつて、「いわて教育の日」のつどいは格別です。お世話になった方々にお会いできること、生徒の皆さんの一生懸命な姿を見ることができることから、今年も心待ちにしています。

第二部の児童生徒による発表表における北上市立黒沢尻北小学校合唱部の発表は圧巻でした。特に「群青」は、多くの参加者の涙を誘いました。この曲が生まれたのは、福島第一原子力発電所から半径20km圏内の福島県南相馬市です。南相馬の子どもたちが東日本大震災によって離れ離れになってしまった仲間を思って、つぶやいたり、書き留めたりした言葉を、小高中学校の先生がまとめて、曲をつけた作品だそうです。

東日本大震災から七年八ヶ月が経過しました。多くの方々の住環境が改善されている一方、再建後の生活不安や仮設住宅に残された方への心配の声もあります。今なお仮設住宅等には三六〇〇人もの方々が入居しております。長引く仮設住宅での生活が子どもたちと与える影響が危惧されます。また、

家族を失い、心に傷を負っている子どもたち、生活再建がままならない家庭環境の子どもたちが多くいます。そのような中で、子どもたちのケアをしていくためには、多くの教職員やスクールカウンセラーの配置が重要です。

「いわて教育の日」の目的である「学校、家庭及び地域社会が連携して、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成する」という理念を効果あるものにするためには、教職員が子どもたち一人ひとりと向き合う時間を生みだすことが、何よりも重要であることを感じた「いわて教育の日」のつどいでした。

「教育の原点」

一般社団法人 岩手県PTA連合会
会長 田口 昭隆



「教育の原点は家庭にあり、子どもへの教育の土台は家庭教育にある。」私たちがPTAに携わった人であれば、一度は耳にする言葉です。子どもにとつて、最初に見る人が親であり、しつけを行うのも親です。そのため、教育の出発点が家庭であり、始まりであるからそういわれるのだと思います。この理念は、昔も今も変わらなく、言われ続けている不変であり、不易なものだと思っています。

その家庭教育で最も大事なことは、人としての生き方の基礎、つまり人として生きる目的を教えることだと思えます。「このようになりたい」とか、「このようになりたい」といった

崇高な目標や夢を持たせることができたら、家庭教育の目的は達成できたと考えていいのではないかと思います。子どもに物心が付いた時期、親から教わった「嘘をつかないこと」「騙さないこと」「人を傷つけないこと」「弱いものを助けること」など、人としての基本を教えることが教育の原点なのではないかと感じています。

アメリカンインディアンの子供に、こんなことがありましたので、その一部を紹介いたします。

1. 批判ばかり受けて育った子は、非難ばかりします。
2. 敵意に満ちた中で育った子は、誰とでも戦います。
3. 心が寛大な人の中で育った子は、我慢強くなります。
4. 公明正大な中で育った子は、正義心をもてます。

子どもの教育を家庭でしっかりと行うことが、今求められていますので、すべては子どもたちのために、一人ひとりの力は弱くても、みんなで力を合わせて、子どもたちを育てていかなければならないと考えて、これからも活動していきます。

何時でも「学校」「先生方」の応援団です！

公立学校退職校長会 岩手手地区会
副会長 小笠原 千恵



今年度の朝の日課は、七時半から八時まで、城南地区教育推進会で行っている「ふれあいパトロールの

一員として住吉神社近くの五又路に立つこと。

そのイデタチは「防犯パトロール」と印字された蛍光のベストを着用し、「ふれあいパトロール」の黄色の腕章と「防犯PATROL」の蛍光の腕章の二つをぶら下げ、手には「横断中」の旗！

城南・附属の子どもたち。城東・附属の中学生。そして感心するくらいマナーを守って自転車をこぐ高校生。

「おはようございます！、いってらっしゃい。」雨、大変だね。気をつけて。「テストいつから？いやだけど仕方ないね。頑張って！」

「部活は何？試合どうだった？」
「あなたの笑顔いいね。」等々・・・
二年生には「私も大昔の二年生だよ」などとよけいな話をするこどもも。

こんな一幕もありました。遠くから「オバさん」と呼びかける元気な声に、ハツとして「えっ、私？オバさん」と不意打ちを食らった感じに・・・。気を取り直し「S太郎君元気な声でいいねえ。オバさんも目がさめたよ。元気が出るよ」などと返したのです。

「先生が笑うとみんなうれいいな」子どもの気持ちが伝わってくる大好きな川柳です。

先生が疲れはてない働き方をしてください。子どもが「先生あーのね・・・」と寄っていきけるオーラが出せるように！



みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第30号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村幸治事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445広めましょう
十一月一日は「いわて教育の日」です

「いわて教育の日」推進協議会

会長 木村幸治



令和元年六月二十五日の「いわて教育の日」構成員全体会議で役員改選があり、不肖私が会長になりました。誠心誠意務めますのでよろしくお願いいたします。

日本では昔から大変な時代を乗り切る知恵とし「教育」を大事にしてきました。南北朝時代、戦国時代は教育として「人物史」を学び生き抜く糧にしました。江戸時代以降もそして終戦後の復興・生き方はまさに「教育(総合・人間学)」そのものの力であり、今こそ生きる糧として最も大事なときです。

日本人の叡智の「教育」を大事にし、「教育の日」を制定しようと全国連合退職校長会(全退連と略称)の動きと合わせて岩手県では、岩手県公立学校退職校長会が中心となり「いわて教育の日」制定推進協議会が結成され諸運動を展開し、平成十七年三月二十八日岩手県議会で念願の「いわて教育の日に関する条例」(以降県条例と略称)が制定されました。その後全退連は平成二十七年(度)から「国民の祝日」「教育の日」の制定を図る活動を推進し、毎年、文部科学大臣へ陳情書を提出しています。

県条例第二条に「いわて教育の日は、十一月一日とする」、第三条の2には「いわて教育週間は、十一月一日から七日までとする」と明記され、県教育委員会が中心になり諸活

動を行ってきました。当会も名称を「いわて教育の日」推進協議会と改称し、推進に全力を挙げて協力してきました。率直なところ、今年(令和元年)は県条例設定から約十五年、岩手県民への浸透はどうでしょうか。複数のグループに「いわて教育の日」はいつでしょうかと尋ねました。岩手県公立学校退職校長会の全県下の事務局長会議では全員(三十二人)が知っていました。さすがです。併せて「いわて教育週間はどうかを聞きましたら三分の一の方々は自信なしでした。他方、ある学校の職員室でお聞きすると「いわて教育の日」は三分の一の方のみしか知っていませんでした。また、朝の出勤途上時に盛岡の中央通りでランダムに三々四十代の方に「いわて教育の日」はいつですかと聞くと殆どの人は「知らない」といい、中には聞いたことはあるよと答える人もいました。

従って、学校関係者をも含めて一般の方々へも「いわて教育の日」の浸透は不十分と考え、当会としては、初心に戻って「いわて教育の日」と「いわて教育週間」の日をしっかりとPRして、十一月一日から十一月七日は「教育」に関心を向けるようにし、今年の十一月二十五日(月)の「いわて教育の日」のつどい(岩手県教育委員会主催、当会共催)に注目を向けていただくようにしたいです。また、当会の構成員の皆様はすでにおやりになっていますが、改めて職場等や家庭・家族で「いわて教育週間」に「教育の話題」を取り上げていただくことは弾みになることです。

今年度から岩手県教育委員会は、「いわて県民計画のもと「岩手県教育振興計画」をスタートさせ、学校教育は「不易と変革」を大事にしながら幸福度の指標も盛り込まれました。また、改定教育課程の全面実施準備、働き方改革を実施しながら充実を目指しています。学校の先生方の努力を思いやりながら広く教育を大切にしたいです。お互いが明日への生きるはりあいになるようにしたいです。

令和元年度 構成員全体会議
が開催される
「教育の日」の浸透
をめざした活動を

令和元年度の「いわて教育の日」構成員全体会議は、六月二十五日（火）午後二時より三十一名の出席者を得て、サンセール盛岡にて開催されました。初めに、佐瀬壽朗会長が、本日に至る



全体会議の様子

までの活動の様子や会員の動静、本県における教育の動きなどについて述べ、条例の趣旨に沿った活動の更なる推進を訴えました。

教育課題に対峙して

岩手県小学校長会
会長 佐藤 卓



現在、小学校では来年度からの新学習指導要領の全面实施にむけて、

その準備を進めています。その一方で、学力保障やいじめ・学校不適応の解消に加え、教員の多忙化解消を図るための働き方改革が大きな課題となっています。

今年一月、中央教育審議会は学校における働き方改革にかかる答申を出しました。以後、文部科学省はその取組の徹底を図るため、ICTやOA機器の積極的な導入・更新による業務の効率化、教員研修の整理・精選等、数々の通知を出し、教師の勤務負担軽減を求めています。
教師の多忙化を改善し、教師が子どもと向き合う時間を確保するためには、

教師自らによる見直しとともに、人的

措置の拡充、情報機器による効率化が必要となります。また、子どものしつけを担うご家庭や人間関係を育む地域の皆様との役割分担、行政や関係団体等のご支援があつてこそ可能になります。

東日本大震災の風化を防ぎ、各地域の実情に即した防災教育を進めることも、岩手の復興のために重要な課題です。

私たち校長は学校経営の責任者として、これらの教育課題に真正面から対峙し取り組むとともに、「岩手だからこそできる教育、やるべき教育」を校長会という組織を生かしながら、いわて教育の日推進協議会の皆様と心を一つにして着実に進めていく所存です。

「地域は学校」

岩手県青少年育成県民会議
会長 平井 ふみ子



地域（街）はひとつの大きな学校である、と子どもの頃から思ってきました。

それは私が生まれ育った県北の町に由来します。公民館の前に、ユネスコ憲章の一節が大きな看板となって建つて

いました。

「心の中に 平和の砦を築こう」
中学生時代、毎日この看板を眺めて登下校しました。

三十数年前、子育て真最中の時に、岩手県から西ヨーロッパ三ヶ国に青少年事情の視察と研修に出して頂きました。

子ども達が非行に走るのには、地域社会と家庭への反発で、かの国にも不登校がありました。コミュニティが子ども達を必死で守ろうとする姿も見えました。

八戸生れの羽仁もと子（自由学園創立者）は「生活 即 教育」を信条として実践しました。

信頼のあるところに教育は成り立つ。我が子がお世話になった校長先生と教職員、そしてスポーツ少年団や子ども会の世話人の皆さまを、感謝の思いで思い出しています。特にも、地域の方々にはとてもお世話になりました。お互いが感化しあう地域の中で、子ども達は大人の姿を、まっすぐな目で見つめています。
頼られる地域社会が、いつまでも続いていく事を願っています。

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第31号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村 幸治

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

【学校からのメッセージ】
 私たち矢巾北中学校「特設」合唱部は、音楽が大好きな仲間が集まって活動している第二の部です。平成二十二年に創部され、今年で十二年目を迎えました。活動時間は、朝と昼休み、それぞれが所属している部活動が終わった後と限られています。先輩方がつないでくださった伝統と指導してくださる先生方や支えてくださるたくさんの方々への感謝の思いを大切に、毎日楽しく活動しています。今年度は、全日本合唱コンクール東北支部大会で男声チームが銅賞、混声チームと女声チームが金賞を受賞し、女声チームは十月二十七日に岡山市で行われた全国大会に出場して参りました。学校の合い言葉の一つ「魂を揺さぶる表現活動」のもと、学校の合唱活動をよりよいものにするためにがんばっています。



合唱とパフォーマンスで豊かにステージをつくりあげる矢巾北中のみなさん

◇中学生による発表
 矢巾町立矢巾北中学校 特設合唱部
 演奏曲 「This is Me!」
 「優しいあの子」
 「愛にできることはまだあるかい」

【学校からのメッセージ】
 マンドリン部は、現在十六名で活動し、皆さんに「smile」をお届けできるよう演奏を目指し、日々の活動に励んでいます。今年度は、全国高等学校総合文化祭に出場し、全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクールでは優秀賞を受賞しました。久慈市は、市の時報がマンドリン演奏で、毎年夏に大規模なマンドリンの演奏会が開催されるなど、マンドリン音楽が盛んで、その歴史は半世紀以上にわたります。今回は、久慈市が舞台となった朝ドラ「あまちゃん」より「潮騒のメモリー」、人間界の若者と禁じられた恋に落ち、その罰として月の世界で舞い続けることを命じられた妖精の物語、「月に舞う」の二曲を演奏します。



息を合わせて曲の世界を見事に表現する久慈高校のみなさん

◇高校生による発表
 県立久慈高等学校 マンドリン部
 演奏曲 「潮騒のメモリー」
 「月に舞う」

「みんなで推進 いわて教育の日」第三十一号（令和元年十二月二十五日発行）



総司会を担当した盛岡第一高等学校

「いわて教育の日」のつどいに参加して

「心を奏でる」

岩手県議会議員

上原 康樹



このたびの集いに参加させて頂き、感動したことがありました。教え子がステージの司会をしていたのです。

盛岡第一高等学校の佐藤春菜さんです。私は、NHK盛岡放送局のアナウンサーとして二十年ほど高校放送コンテストの審査とともに技術向上のための指導に携わって来ました。自身二度の全国大会準優勝の経験を活かし、岩手の高校生のみならず小中学生の皆さんに放送の言葉や表現について実技指導を行いました。嬉しいことに、全国大会で優勝・準優勝をはじめ、毎年のように上位入賞者が出ています。

私の指導は「書くこと」と「読むこと」は表裏一体であるということでした。文章として完成していても、声にして読むと、どこか伝わらない、聞く人の心に届かない、ということがあります。その理由は、自分の肉声や呼吸あるいは感性も含めたトータルな個性を理解していないからではないかと思っています。音楽に例えてみれば、文章は楽譜であり、読むことは演奏すること。楽譜を綴ったら自身の声にしてみることで、その往復運動の中から「より伝わる表

現」が生まれるのではないのでしょうか。人は、それぞれに個性ある楽器でもあるのです。好きな小説や詩を声にするだけで作家の呼吸を感じたり、作品の奥行きが見えて来ることもあります。同時に感性が育まれ、芸術が身近に感じられ、表現への思いが膨らむのではないのでしょうか。

校内放送の指導を通じて、私の思いを多くの教え子たちと分かち合えた幸せは、今も宝です。佐藤春菜さんの司会ぶりに、私は、我が事のようにドキドキしましたが、見事でした。

「いわて教育の日」のつどいに参加して

岩手県中学校長会

常任理事 菅 井 雅 之



「いわて教育の日」のつどいに参加し、教育に携わるひとりとして、その意義を再認識することができました。また、これまで各教育分野において御活躍された皆様に、あらためて心より感謝と敬意を表したいと思えます。

第二部での発表では、最初に矢巾町立矢巾北中学校特設合唱部の合唱がありました。これまでの全国大会での輝かしい活躍を耳にしておりましたが、心のこもった生演奏に「魂が揺さぶられる想い」がしたのは、私一人だけではなかったかと思いました。一人ひとりが歌に「いのち」を吹き込みながら歌う姿は、これまでの子どもたちの成

長を感じさせるもので、とても心に残りました。また、岩手県立久慈高等学校マンドリン部の演奏は、十六名による繊細で流麗な響きとなってホールいっぱいに広がりました。全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール優秀賞、全国高総文祭にも出場し、その演奏曲「潮騒のメモリー」は、久慈市の時報チャイムにも採用されるなど、地域に貢献する高校生の姿として、これからも頑張ってもらいたいと思いました。

第三部の講演会では、教育研究者・学校業務改善アドバイザーの妹尾昌俊氏から「働きがいがあり、かつ、働きたい学校づくりに向けて」と題し、子どもたちのための学校づくりという視点でこれからの先生の働き方について示唆に富むお話をいただきました。子どもたちのためにも「先生が元気で生き生きしていること」が大事であると認識を新たにすることができました。教育は、たくさんの方々のためゆめ日常の取組の積み重ねで成り立っているという思いを一層強くする一日となりました。(盛岡市立見前中学校長)

「いわて教育の日」に思う

日本教育会岩手県支部

副支部長 高橋 ひさ子



十四年目を迎えた「岩手教育の日」のつどい。第一部の教育表彰では、私が現役の時にお世話になった方々のお名前がありました。感謝の気持ち

とともに、当時のことが懐かしく浮かんできました。保護者や地域の方々を教育パートナーとして独自の展開をしていることに光をあて、後押しをしてくださったA先生。二十年前、子どもの成長には、医療機関との連携も必要だと教えてくださった学校医のB先生。特にも軽度発達障がいや登校しづりの子どもたちの困り感や関わりについて何度も相談にのっていただきました。その後、勤務校が変わっても、地域社会との連携の中に医療機関は欠かせないものとなりました。

つどいには毎回、児童生徒がステージに登場します。子どもたちの明るく真っ直ぐな姿にふれ、いつも清々しい気持ちになります。この姿こそ「岩手の子の姿」と確信する場になります。全体進行の県立盛岡第一高等学校佐藤春菜さんの、聞いている人を大事にした伝え方のすばらしさ。

矢巾町立矢巾北中学校特設合唱部の、今流行している曲を再創造し、混声合唱で生き生きと豊かに表現する姿。県立久慈高等学校マンドリン部の、息を合わせて、物語の展開や登場人物の心情を繊細に演奏する姿。それぞれに姿に頼もしさの可能性を感じました。講演会では、妹尾昌俊氏から、「働きがいと働きやすいはイコールとは限らない」という視点で、クリエイティブな教育の実現に向けた手立てを具体的に示していただきました。子どもたちのそばには、元気な先生がいる。県民の一人として私も応援し続けます。



みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第32号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村 幸治事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

チャレンジ・家庭教育

「いわて教育の日」推進協議会

会長 木村 幸治

今、コロナ禍
にあり、感染不
安を持ちながら
コロナと共存し
ての新しい生活

様式をしなければなりません。人との接触を極力少なくし、三密を避けながらの日常生活に慣れる必要があります。学校教育現場は困難を極めています。小・中学校、高等学校での本来の在り方は、教師と児童生徒のふれあい、児童生徒同士の切磋琢磨など三密が普通の姿ですが、現況のお互いの命を守る対策としてはこの三密を避けることが重要ですので学校での教育活動は大変です。児童生徒に「よかったね」等と声をかけて握手をすることも、大きい声で校歌等を歌うこともままならない状況です。貴重な体験活動の修学旅行や学校行事も制限され心の育みが辛いです。子供も保護者も学校での「感染」を心配しています。現場の先生方は学習指導要領の完全実施や移行で「いわて教育振興計画」の二年目に、「いわての復興教育」に、働き方改革に、児童

生徒の命の育みを大事にして、先導的
努力をしています。

この様な状況で子供(児童生徒のこと
以下略)たちに逞しく生きる力をつけさ
せるためには、学校と協力しての家庭教
育の充実が必要です。今こそ私たちの「い
わて教育の日」の実践が重要になります。
県条例に「いわて教育の日は、十一月一
日」、「いわて教育週間は、十一月一日か
ら七日までとする」と決まっています。
この教育の日と教育週間を目標に、各家
庭での「家庭教育の在り方」にチャレン
ジしてみませんか。

今の子供たちに不足していることは、
家庭で培われる生活の基礎基本の育み
が弱いことです。その原因は家族の一
員としての生き方経験が少なく個人個
人だからではないでしょうか。家庭で
は子供は勉強することが第一義になり
王子様、王女様扱いになり、家族の一
員としての在り方が問題です。でも勉
強を認めてやりながらの協働が大事で
す。子供は家庭での消費活動のみで生
産活動に参加していないのでなんとか
工夫して主体的に取り組めるようにし

たいです。

チャレンジは、各家庭では子供にコ
ロナ感染予防対策として「うがい」と
石鹸による丁寧な「手洗い」を習慣化
させることです。そして家族の一員と
して生産活動として「家での仕事」を
責任を持ってさせることです。家庭に
より様々と思いますが、例えば長男は
玄関の靴等のそろえ方、長女はテーブ
ル拭き、食器の準備の手伝い、子供全
員で家庭内のゴミをゴミステーション
への手伝い等です。家族の連携で家事
を手伝う楽しみが生まれれば幸せです。
その中の一つでもいいから長続きすれ
ばより本物になり、この経験はなにか
につまずいた時でもフィードバックが
できる活力になります。家族全員でコ
ロナ時代を生き抜くという気持ちを共
有できます。これらを目に見えるよう
に実施する日を「十一月一日いわて教
育の日から七日までのいわて教育週間」
をチャレンジ週間として、各家庭で頑
張ってみたいかがででしょうか。該当
しない家庭では日々是新也で励みたい
です。今年の十月二十八日(水)の「い
わて教育の日」のつどい(岩手県教育委
員会主催、当会共催)にも注目して
ください。学校の先生方の苦勞と努力
を思いやりながら家庭での子供の育み
を大切に、明日への生きるはりあい
になるようにしたいです。

教育に寄せる思い

構成団体の皆様から、日頃教育に寄せる思いを語っていただきました。

コロナ禍から学びたい

岩手県小学校長会
会長 太田 勝浩



四月、岩手県の小学校は、新型コロナウイルス感染症の臨時休業明けからスタートしました。検温、消毒、マスク着用、手洗い等様々な対応を工夫しながらの学校生活が当たり前となりました。

今年度から完全実施となった新学習指導要領では、移行期で準備してきた、外国語科、特別の教科道徳、プログラミング教育等新しい教科・領域を加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進めています。東日本大震災津波以降、学校では、「いきる・かかわる・そなえる」の三つの教育的価値を育ててきました。この価値は、コロナ禍でも十分応用できるものと思います。「いきる」命の大切さについて真剣に考えます。「かかわる」家族や地域と協力します。「そなえる」コロナについて学び、心の健康の維持について考えます。小・中学校で推進

してきた「いわての復興教育」がまさにコロナ禍における教育活動の原動力になると感じます。感染対策の中で、子供たちの学びは続きます。普段の何気ない生活が実は貴重な時間だったと気付きます。私たち教師は、この大切な時間を子供たちと共有し、充実させていく努力を続けます。

新型コロナウイルス感染症に

負けない学校づくりを

岩手県中学校長会
会長 菊池 正樹



昨年度の終盤から日本国内でも大きな広がりとなった新型コロナウイルス感染症により、県内各学校も大きな影響を受けることとなりました。三月の臨時休業。四月に学校再開となりましたが感染症対策の確実な実施は必要不可欠でした。検温やマスク着用等、日々の感染症対策。学校行事の縮小や延期、中止。授業形態の見直し。県中

総体や文化系各種コンクールの中止。いろいろなかことが制限されている中でも、学校生活を懸命に送っている生徒たちの姿があります。そして、その生徒たちのために活躍の場の確保や、学習保障の推進に向け、日々模索する教職員、学校の姿があります。新型コロナウイルス

ナウイルス感染症に負けない学校づくりへの大きな希望を感じています。

今後各中学校は、感染症対策に加え、来年度全面実施となる新学習指導要領への準備、働き方改革やGIGAスクール構想の推進、いじめ・学校不応答の解消への取り組み等、様々なことに対応していかなければなりません。また、東日本大震災から十年という節目の年も迎えます。このような状況の中だからこそ、私たち校長がリーダーシップを発揮し、多くの課題解決に向けた取り組みを進めていかなければならないと考えています。

幼児教育に求められること

岩手県国公立幼稚園・こども園協議会
会長 今野 充雅



本協議会は県内の国公立幼稚園・こども園四十三園により構成されています。

今般改訂された幼稚園教育要領では、「環境を通して行う教育」や「遊びを通しての総合的な指導」という幼児教育の基本に加えて、幼小中高までの発達と学びを見通し、学校教育で一貫して育むべき三つの資質・能力が示されました。更に、小学校教育との接続を重視する視点から「幼児期の終わりま

でに育ってほしい姿」が明確に示されました。これは、「小学校低学年は学びがゼロからスタートするわけではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子ども達の資質・能力を伸ばしていく時期である」という考えを受け、幼児教育が学校教育の基盤であるとの理解に立って、小学校との接続の具体的な視点を示したものです。

協議会の重要な課題の一つに「質の高い教育・保育の実践」があります。幼稚園の先生方は日常の子ども一人一人の具体的な姿を通して発達の課題を共有し、きめ細やかな手立てを取って確かな育ちへとつなげるよう努めています。

このように、各園で幼児教育に求められる「遊びを通して学びに向かう力を育む豊かな実践」を追究していくことが県内各地域の就学前教育の充実、保幼小連携の実現につながると考えています。



地域活動と新型コロナ

盛岡市町内会連合会

会長 小枝指 好夫



少子高齢化社会の進展は地域における活動にも大きな影響を与えています。

高齢者、子供の健全育成は、町内会活動の大きな柱の一つです。

高齢者を孤独にさせない見守りや、ふれあいを大切にする活動、そして子供の健全育成は半世紀を超えその歴史と実績を積み重ねてきた盛岡市の教育振興運動、子供、家庭、学校、行政とともに地域もその一端を担い、登下校時の子供の見守りや町内行事などの子供の参画を通じその健全育成に関わってまいりました。

こうした中、新年早々、新型コロナウイルスの発生が報じられ、その世界的な規模での感染拡大は、社会経済各般に亘り大きな影響を与え未だ収まる気配もありません。

学校の臨時休校、諸行事の中止、延期、変更など大きな影響をもたらし、町内会連合会においても年度を挟んで、多くの諸行事の執行は従来とは違った処理が強いられました。新年度の事業計画も従来とは異なる展開が想定されます。従来の触れ合い、交流を大切にする活

動とは、真逆に人との接触、行動の自粛が要請され、未だ出口が見えない今日、事業の大幅な変更が予想されます。厳しい環境にあります。『ポジティブ』に考え事業を推進したいと思います。感染が一刻も早く収まることを願いつつ創意工夫により新たな活動の展開に努めたいと思います。

援助の要請と実行の複雑さ

岩手県防犯協会連合会

会長 細江 達郎



隣家の子供の悲鳴に何もしない人も、道に迷った高齢者を保護する見知らぬ人も、報道されます。

人が助けを求め、また人が援助の行動を起こすには、両者の様々な関わり方が影響します。まず、両者とも、それが異常な問題だと気付くことが必要ですが、当人が気づかないこともあります。人は「正常性バイアス」といって異常と判断しない傾向があります。異常だと思っても、その問題に援助が必要だと解

釈しなければ、援助の要請もなされず、援助の行動も起きません。また両者の解釈に違いがあると、事態は混乱します。次に援助が必要であると解釈すると、援助を求める側は、どういう手段で誰に要請するか判断し、可能な援助

の要請の実行が始まります。援助する側は自分が援助する責任があるかどうかを判断します。ひとりだけならば、責任を感じるでしょうが、他の人がいれば複雑となり、「責任の分散」が起きます。自分に援助の責任があると判断した人は、どういう手段で援助するか判断が必要となり、ようやくその手段で援助が行われます。もちろん緊急時にはこれらの過程は瞬時に起きます。

しかし、上記のそれぞれの過程で、阻害要因があることは容易に想像できます。問題に気付かない、気付いても大事だと思わない、援助する責任が自分がない、援助を頼む人や手段がない、適切な援助手段がない、その実行能力がないなど、援助の要請も、援助の実行も簡単ではありません。

援助要請や援助実行の生起・不生起を人の遠慮や怯懦や勇気と単純に決めつけられないで、それぞれの阻害要因を精査し、それを少なくしていくことが求められます。

大人が誇りある行動を

盛岡青年会議所

理事長 宮野 祐樹



まずは大人自身が自身を省みる必要があるのでないでしょうか。現

在、世界は未知なるウイルスの感染拡大により混沌としています。そんな中、未だ大人は自己保身や無責任、利己主義といった、ひとの弱き心に支配された思考や行動に影響を受けています。子供達は私たち大人の背中を見えています。困難や苦境に立たされようとも立ち向かい続ける屈強な心体、ひとの痛みを理解し手を差し伸べる優しさ、周囲の人を巻き込んでいく活力、変化に柔軟に対応できる強靱な知性、何事にも真摯に取り組む高潔さ。私たち大人一人ひとりが子供達のHEROとなることで、子供達はその姿に憧れを抱き、未来へ希望を持つことができるはずで

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第33号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村 幸治

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

「いわて教育の日」の
ついでに参加して

「いわて教育の日」を迎えて

岩手県議員

岩城 元



岩手県では平成十七年三月に、十一月一日を「いわて教育の日」と定めて、教育への関心を高め、次代を担う子どもたちの育成に、学校や家庭、そして地域社会が一体となって取り組むため、教育の充実と発展に努めてまいりました。

本年は、新型コロナウイルス感染症の爆発的感染拡大により、地球規模でパンデミックが起こり、計り知れない脅威となっております。我が国においても、社会経済活動の停滞や混乱が起こり、教育の現場においても予想し得ない事態が発生いたしました。一斉休校措置やマスク着用、手指消毒、検温、定期的な換気など。また、年間行事の変更や中止、オンライン授業の取組、数え上げてもキリがなくなっていくの対策と対応です。こういった中で学習機会の確保や習熟度の確認、三密対策しながらのコミュニケーション能力の向上や野外でのレクリエーションなど、子どもたちの順応能力と教職員の方々のご努力に感謝と敬意を申し上げます。

これから急速に進むICT化、デジタル化、プログラミングなど教育環境の整備がどんどん進む中で、先生方と児童生徒とのコミュニケーションがさ

らに重要性を増してくるものと考えます。環境は変われど、しっかりと対応しながら、強くしなやかに成長していくことを心から願っております。

学校教育における情報化

岩手県小学校長会

常任理事 石橋 多賀子



今年度のつどいは、参加人数や時間等の制限がある中での開催でしたが、県内各地から参集され、共に、岩手における教育の在り方を考える機会をいただいたことに感謝しております。

今回の講演内容は、学校教育に携わっている私たちにとって、喫緊の課題となるものでした。休校中の学習手段としてオンラインで当たり前のようにならざるを得ない状況の中、GIGAスクール構想の推進により一人一台タブレットが実現する日を想うにつけ、学校教育における情報化の推進は一刻も早くと思わざるを得ません。

幸運なことに、我が校は、今年度からICT活用の研究指定校となり、いち早く設備を導入していただきました。活用については、まだ先進校から学ぶ段階ではありますが、授業に取り入れてみたところ、子どもたちはすぐに扱いて慣れ、一人一人がタブレットを使いながら熱心に学習に向かう姿が見られます。算数、理科、体育、音楽など多教科で生かせることがわかってきました。子どもの資質・能力を育むことを大前提にしながらも、道具を効果的

受賞の喜び

盛岡商業高等学校写真部部長



このたびは、このような輝かしい賞をいただき、ありがとうございました。今まで盛岡の先輩方が積み重ねてきたもの、現在の部員である私たちの活動を評価していただいたことに、部員一同喜びを分かち合っております。

盛商写真部は、徹底的に自分の作品に向き合い、「二写入魂」をモットーに日々の活動を行っています。作品に込めたストーリーを基に構想を練り、納得ができるまで写真を撮り続けます。時には一枚の作品に千枚以上撮影を行います。半年以上の時間を要することもありますが、また、部員全員でお互いの作品の講評会を行い、切磋琢磨しながら作品を完成させていきます。昨年度、先輩が全国高等学校総合文化祭佐賀総文写真部門で文化庁長官賞を受賞し、私たち後輩も一層作品を磨いていきたいという思いを強くしました。先輩方から刺激を受け、今年度も岩手県高等学校総合文化祭高校写真展で最優秀賞を受賞し、来年度の全国高等学校総合文化祭和歌山総文写真部門への推薦をいただきました。

今後も真摯に作品に向き合い、見る人の心を動かす写真を撮ってまいります。また、私たちが後輩へ盛商写真部の伝統を引き継ぎたいと思っております。

「みんなで推進 いわて教育の日」第三十三号（令和二年十二月二十日発行）

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第34号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村幸治

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

緊張とリラククス

・他人の立場で考え行動・

「いわて教育の日」推進協議会

会長 木村幸治



令和三年度「いわて教育の日」構成員全体会議が新型コロナウイルス感染症拡大で開催できず、

役員会で承認された役員改選で不肖私
が昨年引き続き会長になりました。
誠心誠意務めます。よろしくお願い
いたします。

昨年来、今年度も新型コロナウイルス感染症が拡大し、八月十二日には岩手県は独自の緊急事態宣言を発出しました。八月二十一日には盛岡市も岩手県もさらに感染拡大ステージⅣ段階の危機的状況になりました。このような現状でコロナと共存しながら個人として家族として会社(組織)としてどう生きたらよいか悩みます。コロナの科学的知見による感染防止をすることが肝要です。個人的な様々の感染防止策は個人の生き方としてできませんが、感染防止上、人との直接交流や会議の会食が制限されることが辛いです。人との直接交流は人間生活、教育活動、社会生活の原点ですのでここが制限や中止されると活動の原点が失われてしまします。会としては、ある程度覚悟をして、これに代わる何か、例えば電

話や文書、会報の充実等で係わりを繋ぎながら大要を確認してベストにはならないがベターの策で乗り切る工夫が大切だと思います。必要なのはお互いの情報交換と信頼です。

教育に係わる当会はコロナ禍における学校の先生方や児童生徒の苦心と苦勞に注目しながら、家庭ではどのような育みで助け合っていたらよいか考えたいです。子どもたちは学校では平時のときよりも、今は想像以上に緊張して人間関係に疲れていると思われま
す。個人としては緊張とリラククスです。登校や外出・会議等の時は感染防止をし、命を守る緊張感が必要です。家庭にあつては心身のリラククスです。体によい食事と前向きな心のあり方です。テレビ等情報番組で社会の一員として興味関心を持って前向きに見ることで、高村光太郎の「心はいつでもあたらしく」の言葉は支えになります。人間は毎日体調が同じではありません。気持ち前向きな時、辛く嫌な時、何もしたくない時等様々ですが時々この言葉や宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩を思い出せば励ましになります。社会は世の流れか又はコロナの影響が拍車をかけたのか「個人的」「自分勝手的」状況が強く、他者への配慮が弱

まっています。この流れに沿いながら、あるいは逆らいながら生きていかねばなりません。家庭では学校に通う子どもたちを受容してあたたく包んでやるのが大事です。しかし、これだけでは我儘人間になります。社会の中で生き方として、大人も同じですが「他人の靴を履く」(即ち「他人の立場になって考え行動すること」)の大事さに気付かせたいです。これは学校で強力に行っていたいただき、家庭と連携して行いたいです。これらのことが習慣になればありますがたいです。当会としてはせめて、十一月一日の「いわて教育の日」と十一月一日から七日までの「いわて教育週間」はこれらのことの実施週間として構成員会議の皆様と連携して取り組んで参りたいです。「他人の靴を履く」は英語で

Putting oneself in another's shoes
この価値観は哲学学会でも最高の価値観と言われています。今年の「いわて教育の日」のつどい「岩手県教育委員会主催、当会共催」は十一月一日(月)です。注目してください。また、当会の構成員の皆様はすでにおやりになっていますが改めて職場等や家庭・家族で「いわて教育週間」に「学校のことや教育に関する話題」を取り上げていただく身近な活動の弾みになります。学校はコロナ対策をして新教育課程の全面実施、ICT(情報教育)の活用等に取り組んでいます。学校の先生方の努力を思いやりながら広く教育を大切にし支え合いお互いが明日への生きるはりあいになるようにしたいです。

「みんなで推進 いわて教育の日」第三十四号(令和三年十月一日発行)

「いわて教育の日」
「寄せて」

コロナ禍だからこそ創意工夫を

岩手県小学校長会
会長 小山田 秀次



岩手県内の小学校は、昨年度から続くコロナ禍にあります。新しい生活様式に準じ三密をさける対策を講じながら、本年度も四月から学校をスタートしています。

本年度の学校行事は、約八割の小学校が五月に運動会を実施するなど、多くの学校で、感染症が拡大する前の令和元年度と同様の時期に計画・実施しています。その一方で、運動会を午前中の半日開催としたり、修学旅行の目的地を県内にしたりと、活動内容や取り組み方などの見直しが行われています。また、感染症の拡大に伴って文部科学省が前倒しで進めてきたGIGAスクール構想にかかる子ども一人一台端末を整備することについては、二期期には県内の全ての小学校でハード的に整いそうな状況にあります。しかし、

それを使う教員が、まだその機能や使い方に慣れていない状況にあり、これから授業にどのように生かしていくか研究する必要があると考えています。震災時、学校は子どもたちの命と安全、そして学びを守りました。コロナ禍においても、この使命は変わるものでなく、子どもたちにとって充実した学校生活となるよう、創意工夫を凝らし、前に進んでいかなければならないと考えております。

課題に対応できる学校づくり

岩手県中学校長会
会長 松葉 寛



令和三年度も、コロナ禍での学校経営・校長会運営を行っています。

ただし、昨年度の経験が大きく活かされておき、学校の新しい生活様式に対応した感染症対策を講じながら、学校の行事や校長会の事業等を行っています。今年度から新学習指導要領が全面実施となり、「子どもたちの視点からの学びの充実・ICT等を効果的に活用した学習の質の向上」を図る取組を推進しています。その他に、「不登校解消の

取組・いじめやSNSを起因とした問題」等への対応も行っています。

また、各校では東日本大震災津波の発災以来、「郷土を愛し、その復興・発展を支える」ということを目指して『いわての復興教育』を取り組んでいます。震災津波から十年が経過した今、『いわての復興教育』の理念を風化させることなく、コロナ禍という災害的状況だからこそ、「いきる」「かかわる」「そなえる」の三つの教育的価値に照らし合わせて「何ができるか」という視点で改めて見直し、次へのステージに向けた新たな教育活動を展開していく必要があると考えています。どのような状況においても揺らぐことなく、私たち校長がリーダーシップを発揮し、多くの課題に対応できる学校づくりを目指します。

学校と保護者の連携を通して

盛岡市PTA連合会
会長 佐藤 康之



これまで、小中学校のPTAや盛岡市PTA連合会役員としての活動を通して、学校教育や社会教育等、教

育全般から学んだことが多い日々でした。

そのいくつかをあげると、第一に「学校とPTAが共に手を携え、子どもの教育を展開していくこと」の大切さです。保護者として、学校の先生方が子どもの教育に集中して当たることができるような環境を整え、コミュニケーションを深めていくことが子どもの教育にとって大切であると思います。

第二に「家庭教育や保護者としての学びの場としてのPTA活動」です。私自身、キャリア教育やPTA役員として、多くの方々と接する機会が多く、社会の一員として大切な学びを得ることができました。

最後に、コロナ禍の中、教育やPTA活動が大きく変化しています。それでも、子どもたちの教育活動については、今できる最良の支援をしていかなければなりません。

去る九月四日に「東北PTA盛岡大会」を、皆様のご支援をいただき、完全オンライン大会で開催することができました。与えられた環境の中で工夫し、みんなと力を合わせて活動することの大切さを感じる日々です。

幼児教育の振興充実について

岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
会長 坂本 洋



義務教育就学前の幼児教育の充実は、平成二十九年改訂の幼稚園教育要領に示される次代に必要な三つの資質・能力の育成を柱に、環境を通して幼児の主体的遊びをアクティブラーニングとして、幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿を具体的に掲げられ、小学校教育に円滑に接続する生活・学習基盤の力を総合的に推進するよう求められております。

当県幼稚園では、岩手県教育振興計画・いわて子どもプランの振興を中心に、現在各園とも前述の教育要領の充実、資質向上に邁進しておりますが、それを更に指導サポートする幼児教育センター（仮称）設置も新年度いよいよ具体化するようです。幼稚園ばかりでなく保育所、認定こども園を含め幼児教育の専門性資質向上の充実や幼児教育アドバイザーの養成と共に各施設訪問支援が期待される機能となっております。

なおこの度、文科省から発表された幼児教育スタートプラン・幼児期からの学びの基盤づくり、幼保小の架け橋プログラムを通じた五歳児の生活・学習の基盤保障は今後注視する内容です。

未来を担うジュニアリーダーの育成

岩手県子ども会育成連合会
会長 三浦 保治



岩手県子ども会育成連合会は青少年の育成を重点事業とし「子どもゆめ基金助成活動岩手県ジュニアリーダー福祉ボランティア活動2021」を子ども会、中学生・高校生に参加を呼びかけて実施しました。

活動は、市町村ジュニアリーダークラブから進んで参加した中高生の皆さんが実行委員会を組織して取り組み、活動のプログラムを企画立案し運営実践をしました。

福祉ボランティアは、幼児を対象としたコース、高齢介護者を対象としたコース、動物の癒しを対象としたコースの三活動の企画です。

コロナ禍で施設内での活動ができないうのでバルーン創作活動の作品、絵手紙、折り紙など参加者が考えた作品を作成し施設を訪問して届けました。

保育園では、玄関で幼児や保育士さんに届けました。「高齢コース」の施設では、施設長さん、職員の方が受け取ってくださいました。

参加者は、幼児の喜ぶ姿、保育士さんや施設の職員の方からの感謝の言葉を頂き達成感を得たようでした。

「動物癒しコース」は馬っこパーク

いわてで、厩舎の清掃、餌やり、乗馬体験をしました。この活動で人と動物の癒しが大切なことを体験しました。

交流活動は、仲間との交流を通して、友情の絆を深め、仲間と活動する喜びや意欲を高めました。

この活動でボランティア活動に積極的な関心と意欲が育まれリーダーとして成長して欲しいと期待します。

特別寄稿

令和三年度の教育行政の推進について

岩手県教育委員会
教育長 佐藤 博 様



「いわて教育の日」推進協議会の皆様方には、「いわて教育の日」の制定に際し、多大なお力添えを賜るとともに、その普及啓発を通じ、本県教育の充実と発展に御尽力いただいているところですので、改めて心から感謝申し上げます。

東日本大震災津波の発災から十年が経過し、被災した「岩手県立野外活動センター」の移転復旧整備が令和三年三月に完了し、七月一日から全ての施設の供用を開始しました。

被災した教育施設の復旧が完了する

一方で、児童生徒の心のサポートについては、今後も重点的に取り組んでいく必要がある、引き続き、心のサポート体制の充実や、被災した児童生徒への就学支援など、児童生徒一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいきたいと考えています。

さて、令和三年度の岩手県教育委員会の重点施策についてお話しさせていただきます。（中略）

今、学校教育に求められていることは、児童生徒が、変容する社会に適応し、社会を創造するための「生きる力」を身に付け、岩手の未来を切り拓いていけるよう育成していくことです。

さらに、一人ひとりの人生が豊かで活気ある地域社会の形成に教育分野から貢献できるよう、県教育委員会として学校教育や社会教育・家庭教育の推進を図っていくことです。

今後も、関係者の方と連携を図りながら様々な取組を推進して参りますので、引き続き、一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第35号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村 幸治

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

「いわて教育の日」の つぎに参入して

未来を拓く学校教育
盛岡市小学校長会会長

眞壁 信義



今年度のつどいも、参加人数や時間等を制限しながらも、県内各地の方々や岩手の子どもたちのための教育を考える機会となりました。学校表彰では、コロナ禍の中も揺ら

がず歩み続けた読書活動や音楽活動の大きな成果と共生社会への支援学校の実践に、岩手の教育の深さと広さを感じました。
講演では、社会の大きな変化と必要とされる資質・能力、それを育てる教育の在り方をお示しいただきました。AIが発達しても、従来の価値感を変え新たな創造を行うのは人間の力であるというお話に、教育の可能性と重要性、そして大きな期待を感じました。想定外や未知の状況を乗り越えていく力が求められています。そんな「自分で判断」し、「自分で行動」し、「失敗を恐れない」子どもを育てていくために、学校は正解のない課題に挑戦し、失敗を経験できる場所であってはいけません。一人一台のPC配置や学校と地域の連携は、未知の課題を主体的に探究する学びを可能にします。そのため教師のスキル、学校や地域の体制など課題もありますが、この先にある子どもと学ぶ教師、地域と協働する学校、そして子どもたちの笑顔を目指し、

一歩ずつ前進したいと思います。

(盛岡市立山岸小学校校長)

子ども自ら学ぶ力を育みたい

岩手県PTA連合会会長

岩 舘 智 子



PTAとして「いわて教育の日」に参加し、岩手における教育の在り方考える機会をいただきました。ことに、心から感謝しております。

ご講演の中で、これからの教育には子どもたちが暗記ではなく、思考力や探究心をもって自ら学ぶ力を養っていくことが大切であり、そのためには私たち親も教育への関心や理解が必要であると、あらためて感じました。また、OECD東北スクール事業に取り組んだ学生のことにもふれ、東日本大震災の復興に向け、自分たちが考え、自分たちで実行しました。

子どもたちが「社会全体のウェルビーイング」に向け、PDC Aサイクルではなく、AAR「見通し・行動・振り返り」が重要であり、様々な力を育んでいくためにも、「トライ&エラー」「失敗なくして成功なし」というお話も心に残りました。そして、子ども一人ひとりに合った学習とは、「この子にはこのやり方」を見いだすポイントが保護者であることから、各家庭において、まず我が子の理解（よさを見いだす）を心掛けていきたいと思えました。私共PTAでは、これからも岩手の子どもたちがもつ無限の可能性を引き出せるよう、全ては子どもたちの笑顔のために、PTA会員相互の学びを深めながら、学校・地域・家庭と連携し、子

どもたちの良き理解者でありたいです。

しつづける

盛岡第四高等学校音楽部前部長



この度は、このような名譽ある賞をいただきとても嬉しく思います。

これまでの先輩方が積み重ねてきたもの、顧問の先生はじめ、コーチの先生などのご指導、そして応援してくださる多くの方々の支えのおかげです。ありがとうございます。盛岡四高音楽部活動目標のひとつに「万里一空」というものがあります。これは努力し続ける事を意味する言葉で、私たちは毎日唱和し実践してきました。また、全国大会で金賞を受賞し特別賞をいただく事を具体的な目標のひとつに掲げ、これも毎日声に出し、達成することができました。昨年から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、通常の練習を行えず苦しい日々が続きましたが、イベントでの演奏や訪問演奏も続けました。

そして今年度は、二年ぶりにコンクールが開催され、十月三十日大分県で行われた第七十四回全日本合唱コンクール全国大会高等学校部門Aグループに出場し、最高賞の文部科学大臣賞をいただくことができ、四高音楽部に新しい歴史を刻むことができました。応援してくださる多くの皆様のお蔭で私たちは練習に集中し、大会に出場出来ると思っております。この環境を当たり前と思わず、常に感謝の気持ちを持って更に部活動に精進してまいります。

「みんなで推進 いわて教育の日」第三十五号 (令和三年十二月二十日発行)

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第36号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村幸治

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

時の言葉、時の人に関心を ・学校・職場・家庭で・

「いわて教育の日」推進協議会

会長 木村幸治



この夏の全国
高等学校野球選
手権大会では、
東北で初めて
一〇七年ぶりに

仙台育英高等学校が優勝しました。うれしいニュースでした。マスコミ等は「深紅の大優勝旗が初めて白河の関を越えた」。東北は「白河以北一山百文」の呪縛から解放されたと絶賛しました。このような時こそ学校で、職場で、家庭で時の言葉としての「白河の関」「一山百文」を話題にしていたできれば生きる知識と当会の活動に役立ちます。白河の関は奈良時代に設置された関東と東北を境する福島県にある関所です。まさに出番は岩手の先人平民宰相原敬です。雅号に「一山百文」(印)を用いた心境を語ることも時宜にあった楽しみ方です。また、最近亡くなった京セラ創設者で名誉会長稲盛和夫氏の数ある名言のうち気に入った言葉、例えば「感謝の心が幸福の呼び水なら素直な心は進歩の親であるかもしれませぬ」などについて社員と意見交換するのも興味関心が高まります。このよう

にして「時の言葉や人」に興味・関心を持ち話題にすることは魅力的です。原敬の「一山百文」に触れてみます。慶応四年戊辰戦争の時、会津藩攻撃に侵略していた奥羽鎮撫総督府軍の参謀長州藩世羅修蔵の出した密書です。東北諸藩は恭順の姿勢を示していたのに、密書には「白河以北一山百文なり、みなで斬りにせよ」との指令です。今の言葉に直すと「白河の関から北の東北地方は一山百文の価値のないところだ。皆殺しにせよ」です。激怒した東北の諸藩は奥羽越列藩同盟として戦いに臨み敗れ、朝敵・賊軍となりました。首席家老たちは処刑され明治の新時代になり辛い屈辱や差別を受けました。盛岡藩の原敬は十三歳の明治二年六月二十三日、尊敬していた藩主席家老榎山佐渡が報恩寺で処刑されたとき、近くの山に潜み号泣し復讐を誓いました。原敬は青年期には雅号を「一山百文」として雪辱と復讐を誓っていました。大正六年六月九日原敬は政権を殆ど手中にしている政友会総裁です。盛岡の報恩寺で雪辱を晴らす絶好の機会として「戊辰戦争殉難者五十年祭」を営み

祭文で「余は戊辰戦争は政見の異同のみ誰か朝廷に弓を引くものあらんやといひてその冤を雪げり」と読み上げました。会場の「報恩寺」は榎山佐渡が処刑された場所であり、期日の「六月九日」は慶応四年から明治元年に「改元」された日です。いうならば政府に一矢を報えたのです。政府からのお咎めを覚悟していましたがなにも来ませんでした。東北各県からはこれで雪辱は晴れたと喜ばれました。ここに戊辰戦争での「一山百文」の雪辱は果たされ、翌年原敬は総理大臣になりました。その後齋藤實、米内光政と総理大臣が続きました。そして今年の甲子園での優勝は高校生の手で長年の精神的屈辱的束縛を見事に解放したのでした。うれしい限りです。

県条例に「いわて教育の日は十一月一日」、「いわて教育週間は、十一月一日から七日までとする」と決まっています。この教育の日と教育週間を目標に、それぞれの場での「いわての教育の日」の語らいをしてみたいのです。また、今年の十一月七日(月)の「いわて教育の日」のつどい(岩手県教育委員会主催、当会共催)にも注目してください。学校の先生方の苦労と努力を思いやりながら家庭や環境での子供の育みを大切に、明日への生きる糧になるように協力したいです。

「みんなで推進 いわて教育の日」第三十六号(令和四年十月一日発行)

「いわて教育の日」
に寄せて

郷土を愛し、復興・発展を支える人づくり

岩手県小学校長会

会長 紺野好弘



今年七月、盛岡を会場に開催した第六十二回東北連合小学校長会研究

協議会岩手大会でのシンポジウムにおいて、シンポジストの一人であり、震災当時釜石東中の生徒だった菊池のどかさんは「自分自身を認めてくれる先生がいたことは生きていくうえで大きな糧になった。自分も他の人のことを認められる人になりたい」と力強く語っておられました。のどかさんの言葉は、まさに教育の原点であり、校長として、何を大事にして教育に当たるべきかについて改めて考えさせられる貴重な機会となりました。

シンポジウムのアンケートに「菊池のどかさんは、岩手の教育が育てた代表のように感じた」という感想がありました。このことから震災以降、本県教育が根幹に据え取り組んできた「郷土を愛し、復興・発展を支える人づくり」が着実に実を結んでいることを実感しています。

新たな学校像

岩手県中学校長会

会長 佐野理



中学校教育においては、昨年度全面実施となった学習指導要領の趣旨

を踏まえた「知・徳・体」を育む教育課程の創造に努めると共に、「いじめ問題と不登校解決への適切な対応」や「教職員の資質・能力の向上」「コンプライアンスの徹底」等に取り組むことが求められております。喫緊の課題である「働き方改革の推進」「GIGAスクール構想の実現」、「部活動の地域移行」等の教育改革を円滑に進める必要があると考えています。

また、復興教育の理念を風化させることなくどのように引き継いでいくか、その具体策を明確にしていく時期を迎えました。今こそ、感染症拡大防止を徹底しつつ、コロナ禍に対応した新しい学校像について議論を深めていく必要があると考えております。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

岩手県高等学校長協会

会長 梅津久仁宏



今年度は高等学校において新学習指導要領が実施となりました。観点

別学習状況の評価が平成二十九年度から全県立学校において実施されているほか、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、特にICTを活用した授業が充実してきています。

また、県教育委員会において昨年度「いわての高校魅力化ブランドデザイン」(岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション)が示され、これを基に各校でスクールポリシーを策定しています。加えて、高校・特別支援学校もコミュニティスクール(学校運営協議会)の設置が進んでいます。

新型コロナウイルス感染症対応三年目となりましたが、今年度は高校総体開会式が実施されたほか、高校野球も制限はあるものの応援活動が認められ、徐々にではありますがコロナ対応と上手にバランスを取りながら教育活動、生徒の活動が行われています。

今こそ就学前教育の一層の充実を

岩手県国公立幼稚園・こども園協議会

会長 芦 宏



昨年七月に、初等中等教育分科会に「幼児教育と小学校教育の架け橋

特別委員会」が設置されました。このことから見えてきたのは、国として幼児教育に本腰を入れて取り組もうとしている姿勢です。

このような動きを受け、岩手県でも

就学前幼児教育の推進に向け、今年四月から「いわて幼児教育センター」の本格運用がスタートしました。幼稚園・こども園・保育園等で希望する園は、国公私立の設置主体に関係なく、幼児教育専門員の訪問支援を受けることができます。

就学前教育に携わる私たちは、小学校教育との滑らかな接続を目指し、今こそ「遊び」は「学び」という共通理解のもと、関係機関と連携しながら、より一層の就学前教育の充実に取り組んでいきたいと考えています。

日本教育公務員弘済会岩手支部
より研究助成金交付される

六月二十一日に開催された構成員全体会議の席上で、日本教育公務員弘済会岩手支部の高橋清之支部長より研究助成金が交付され、木村幸治会長が受領しました。

また、岩手県公立学校退職校長会からも、八月十八日に活動推進費を受領しました。有効に活用させていただきます。有難うございました。



みんなで推進

いわて教育の日

情報紙

第37号
(通巻)

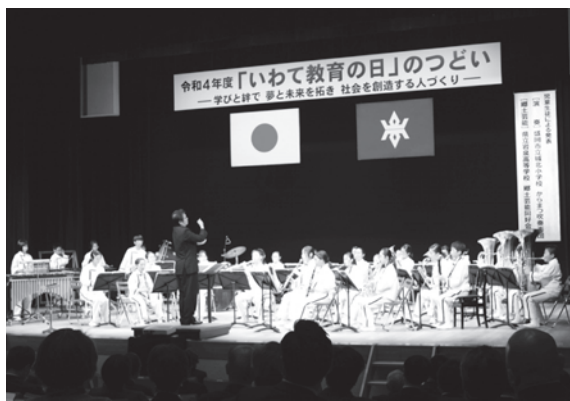
発行「いわて教育の日」推進協議会
代表 木村 幸治

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

学校からのメッセージ

私たち盛岡市立城北小学校からまつ吹奏楽団は、四く六年生の五十名が集まり、心から心へ伝わる音楽を目指して日々楽しく活動しています。

今年度は、「Espressivo」〜想いを伝えよう〜をテーマに、一人ひとりの表現力を高めるように取り組んできました。その結果、先日行われた東北吹奏楽



◆盛岡市立城北小学校
からまつ吹奏楽団
「Espressivo」〜想いを伝えよう〜

コンクールにおいて、おかげさまで二年連続での東日本学校吹奏楽大会への東北代表推薦をいただくことができました。今回は五・六年生を中心とした三十五名で、会場の皆様に私たちの思いが伝わるように一生懸命演奏いたしますので、どうぞよろしく願います。

◆岩手県立岩泉高等学校
郷土芸能同好会
「中野七頭舞」



学校からのメッセージ
郷土芸能同好会は、平成元年に発足し、以来全国大会出場十回、国立劇場演舞三回、パリ公演と数々の実績を重ね現在に至っています。
多くのメンバーは他のクラブ活動に所属しながら、中野七頭舞の伝承を志す第二部「児童生徒による発表有志の集まり」です。クラブ活動の最盛期には両立が大変ですが、故郷に伝わる魅力ある舞を多くの方々に広め、後輩へ継承することは大切な役割であると感じています。

中野七頭舞は、「天保の七年飢饉」が起きた頃に黒森神楽の「シットギジン舞」を基本として創作されたと伝えられており、踊り手は七つの役割に分かれ、舞も七種類あることが七頭舞の由来となっています。

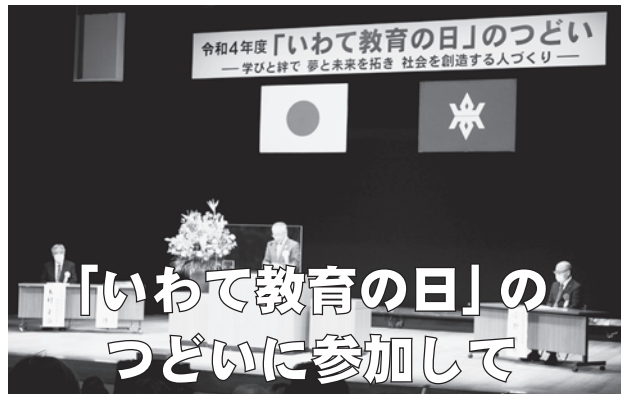
原野を開墾し、作物を植え、害獣から守り、収穫を分かち合う農民の日々の営みを通して、五穀豊穡を願いながら演じます。

参会者からの感想

農民に伝わる「七頭舞」は、人々が七つの道具を持って新しい土地を開拓していくものです。この踊りを継承しているのは岩泉高校郷土芸能同好会の皆さんです。逞しく生きる姿が表現されていて、全身を使って踊る躍動感に圧倒されました。

笛担当の生徒は「いわて教育の日に披露できて嬉しかった」と、誇らしげな表情を見せていました。

「みんなで推進 いわて教育の日」第三十七号（令和四年十二月二十日発行）



みんなで子どもを育てる

滝沢市立滝沢中央小学校

校長 村田 浩 隆



開会を飾る、城
北小学校からまつ
吹奏楽団の演奏、
岩泉高等学校郷土
芸能同好会の演舞

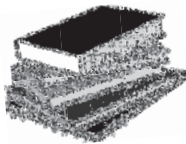
に、児童・生徒のエネルギーを感じ、
教育によって磨かれた輝きある姿か
ら、次世代の担い手が確実に育ってい

るのだという、安心感や嬉しさが込み
上げてきました。

木村泰子先生の講演は、自らの学
校経営を振り返る機会となりました。
子どもの特性に応じて「形の決まった
スーツケースに入れるような指導では
なく、柔軟に形の変わる風呂敷に包む
ような指導」が求められていることや、
「教職員は異動で変わる（風）。地域は
そこに在り続ける（土）。学校をつくる
当事者は教員だけでなく、保護者や地
域でもある」などの話は、大いに共感
できる内容であり、本校の教育におい
ても大切にしたい教育観でした。

本校では、「正義」と「信頼」の学校
づくりを目指し、児童、保護者、地域
が学校づくりに参画する中で、児童自
身が「認められている喜び」や「学級に
所属している安心感」を実感できる教
育を目指しています。

ご講演を拝聴し本校の取組に勇気を
いただくとともに、教職員が児童に寄
り添い、保護者・地域と一緒に子ども
を育てることの大切さを強く感じまし
た。関係の皆様にご感謝申し上げます。



読み聞かせは本への入り口

盛岡市 佐々木 征 子



この度の思いが
けない受賞に、喜
びと身の引き締ま
る思いを感じて
おります。誠にあ

りがとうございました。「読書ぎらいは
大人の責任」との思いで、子ども達に
読書の楽しさや大切さを伝えようと活
動している読書ボランティアの方々、
読書推進に関わっている方々に感謝を
し、共にこの喜びを分かち合いたいと
思います。

読書ボランティアの活動内容は多岐
にわたっております。特にも活動の中
心に据えて力を入れているのは読み聞
かせです。それは「本への入口」と捉
えているからです。

読み聞かせは、子どもの興味を引き
出し、情緒的な発達を促し、創造力や
言語の力を知らず知らずのうちに刺激
すると言われております。

大人が読書への興味の種をまき、栄
養を与えれば、子どもの読書への興味
はどんどん広がっていきます。
スポンジのような柔らかかな心に豊か
な言葉のシャワーを注ぐことで、しだ

いに言葉が増え、世界が広がってい
ます。やがて、子どもは自ら本に手を
伸ばすようになるでしょう。

子どもも大人も読書を楽しみ、日々
のくらしの中に習慣として根づくよう
にと願いながら、私も微力ながら読書
のタネまきを続けて参りたいと思いま
す。（教育表彰 受賞者）

総司会者から

岩手県立盛岡第二高等学校



今回特に工夫し
たのは、児童生徒
発表の紹介です。

田智和先生に自
分も教わっていたこともあり、からま
つ吹奏楽団代表の安藤麗乃さんに先生
の指導の様子を聞いて紹介に入れまし
た。岩泉高校郷土芸能同好会の上家達
矢さんからは、地元での就職が決まっ
ていて今後も地元の郷土芸能に関わっ
ていくという決意をお聞きし、それを
紹介に盛り込みました。第三部の講演
では講師の木村泰子先生に紹介を褒め
ていただき、こういうことができるよ
うになりたいと思いました。今回の経
験は得がたい学びになりました。本当
にありがとうございます。

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第38号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 吉川 健次事務局 〒020-0004 盛岡市山岸4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445「いわて教育の日」推進協議会
会長就任にあたって

「いわて教育の日」推進協議会

会長 吉川 健次



「いわて教育の日」推進協議会の構成員全体会議で、会長になった

岩手県公立学校退職校長会会長の吉川健次です。前会長の木村幸治様を見習い、努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「いわて教育の日」について、少し振り返ってみます。

「いわて教育の日」の県条例が制定されたのは平成十七年四月一日です。

この制定に向け、岩手県公立学校退職校長会は、平成十二年度から取り組み始め、平成十四年度「教育の日」制定推進協議会を設立し、県議会等への誓願・陳情、県議会全会一致の誓願採択・条例可決成立と精力的に進めることができました。

「いわて教育の日」県条例制定を受けて、平成十七年四月十三日開催の構成員全体会議において、会の名称を現在の「いわて教育の日」推進協議会といたしました。

引き続き本会が事務局となり、「いわて教育の日」の啓発普及、条例に基づき県が行う推進活動への推進協力などを目的として活動してきております。

この趣旨に賛同し、推進協議会の構成員となっている団体は、この情報紙の八ページに掲載されていますので、ご覧下さい。

これまでの推進協議会の主な活動は、年に二回発行の情報紙による啓発普及活動と、県が主催する「いわて教育の日」のつどいに共催者の立場から協議会の各構成団体に参加協力の要請などを行ってきております。

協議会で作成している情報紙は、毎号五千部発行し、各構成団体に配付すると共に、主催者である県教委、各教育事務所、共催者である各市町村教育委員会、各県議会議員、各市町村議会議員等にも贈呈しております。

令和五年度も同様の取組みを計画しており、昨年度から、構成団体を七団体ほど紹介しており、今年も同程度の団体を紹介して参ります。

また、毎年開催している「いわて教育の日」のつどいは、開行行事、岩手県教育表彰、児童生徒による発表、記念講演などを行ってきておりますが、令和二、三、四年度とコロナ禍により人数制限による開催となっております。今年こそは、入場制限のない「いわて教育の日」のつどいになればと期待しているところであります。

また、平成二十七年度に「いわて教育の日」設立十周年記念事業（記念式典、記念祝賀会、記念誌の発刊）を開催しており、令和七年度は設立二十周年の年になるので、どのような記念事業にするか、その案を考える年にして参ります。

「いわて教育の日」
に寄せて

アフターコロナの時代に応じた
小学校教育の再構築

岩手県小学校長会
会長 佐藤 淳



令和五年五月から
新型コロナウイルス
感染症の対応が変更
となり、コロナ禍以
前の教育活動が戻りつつあります。全
校での学校行事や学校を超えての児童
や教職員の交流機会が増えたことは、
これまでの閉塞感を打破し新たな学校
教育の活力を生み出しています。

一方で、不登校児童や特別な支援を
要する児童の増加への対応に加え、タ
ブレット端末の効果的活用や個別最適
な学びと協働的な学びの一体的推進な
ど、学校現場の課題は山積しています。
こうした中、各校においては、コロナ
禍前の教育活動にただ戻すのではなく、
各校の現状に応じながら教育目標の重
点化を図るなど、アフターコロナの時

学校からの教育改革

岩手県中学校長会
会長 中屋 豊



社会に開かれた教
育課程、主体的・対
話的で深い学びの実
現、カリキュラム・

マネジメントの確立、個別最適な学び
や協働的な学びの実現が求められてい
るとともに、生徒指導提議の改訂によ
り、生徒指導の実践上の四つの視点を
生かして学習指導と生徒指導を相互に
関連させていっそう充実を図ることが
求められています。また、復興教育の
理念を風化させることなく引継ぎ、ど
う発展させるか、具体を考え実践して
いかななくてはなりません。更に、部活
動の地域移行等、中学校教育の大きな
変革となる取組も始まるようしていま
す。
私たちは、子供たちの「社会を生き
抜く力」と「よりよい社会を形成する

代に応じた新たな教育活動や教育体制
の再構築に努めています。そして、児
童と教職員にとって、ウェルビーイン
グな学校の具体化を目指していきたい
と思います。

高校教育を巡る新たな動き

岩手県高等学校長協会
会長 高橋 一佳



これまで新型コロ
ナウイルスによつて
教育活動が大きく制
約されてきましたが、

今年度に入り、授業はもちろん、学校
行事や校外活動等もコロナ前に近い形
で行われています。七月に実施された
高校野球県大会も声を出しての応援活
動が認められ、球場に選手を鼓舞する
声援が戻ってきました。
今、高校教育は大きな変革期にあり
ます。令和三年度に県教育委員会が示
した「いわての高校魅力化グランドデ
ザイン」に基づいて各校ではスクール
ポリシーを策定しました。これを踏ま
えて各校では、大学や地域等と連携し
て「総合的な探究の時間」等の充実を
図り、生徒の課題発見・解決能力の育
成や学校の魅力化に取り組んでいます。
加えて、ICT機器を有効活用する授

力」を育むため、これからもパラダイ
ム・シフトを恐れず、新たな教育課題
に対しても果敢に挑戦し、学校からの
教育改革の推進に取り組んで参ります。

幼保小連携の重要性

一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
会長 今 西 界 雄



令和五年二月に行
われた中教審初等中
等教育分科会の幼児
教育と小学校教育の

架け橋特別委員会において、幼児期は
遊びを通して小学校以降の学習の基盤
となる芽生えを培う重要な時期であり、
学びの連続性に配慮しながら「架け橋
期」の教育の充実を図り、生涯にわた
る学びや生活の基盤をつくることが重
要であることが確認されています。今
までの小学校への順応を目的とするこ
とから、今後は学びの連続の中で幼保
小接続を重視し、協同しながらカリキュ
ラム編成をしなければなりません。ま
た、その取組に必要な期間は、地域単
位で年長児から小学一年の二年間とし
ています。その背景には、昨今増加し
ている小学校低学年の登校拒否がある
と考えられます。新たな幼保小連携は
喫緊の課題と言えます。

業の実践、探究的な学びをSTEAM
の視点から深める取組等にも着手して
います。

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第39号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 吉川 健次

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

◆中学生による発表
一関市立磐井中学校合唱部



■発表者からのメッセージ
私たち磐井中学校合唱部は、自分たちの想いのこもった、あったかくてわくわくするよ
うな合唱を目指し、日々練習に励んでいます。
コンクールへの参加で技術を高め、様々なス
テージやイベントでは、部員みんなでアイデ
アを出し合って、聴いてくださる方々に合唱
の喜びを届けています。私たちの演奏から「合
唱っていいな、元気が出た。」「心に響くなあ。」
など、聴いてくださる方々が、そんな気持ち
になってくださったなら、とてもうれし
いです。
合唱は一人ひとりの歌声が寄り添ってでき
ます。部員の心の成長や人間性が音楽に表れ
ると思います。これからも、毎日の学校生活
の充実と、自分磨きに励んでいきます。
この度は、このような素敵なお招きにお招
きいただき、本当にありがとうございました。

◆高校生による発表
岩手県立盛岡南高等学校軽音楽部
all bloom.



■発表者からのメッセージ
今回、「いわて教育の日」のつどいで演奏
できると聞き、嬉しい気持ちと不安な気持ち
がありました。普段私たちは同年代や音楽愛
好家の方に聞いてもらうことが多いため、更
に幅広い方々に楽しんでもらえるか心配にな
ったからです。
しかし、本番のステージでは、皆さんが手
拍子で盛り上げてくださったのでとても嬉し
かったです。そして、このバンドにとっても最
後のステージでもあったので、私たち自身も
全力で楽しんで演奏できました。
私たちは、進路の関係で卒業後はバラバラ
になってしまうのですが、最後に「いわて教
育の日」のつどいで軽音楽部初の演奏ができ
て、とても誇らしい気持ちになりました。

■参会者から寄せられた感想
今年度も生徒による発表で「いわて教育の
日」のつどいを盛り立ててくれました。
本つどいでは初ジャンルである、軽音楽の
演奏からはじまりました。県立盛岡南高等学
校軽音楽部 All bloomは三年生五人組ガ
ルズ・バンドです。『Painting Flowers
Bloom』笑顔の花が咲き誇る』をモットー
にキラキラな笑顔の五人が三曲を会場いっ
ぱいに演奏してくれました。明るく楽しくか
ましい雰囲気や会場を包む一体感を楽しま
しました。

中学校の発表では、一関市立磐井中学校合
唱部の皆さんが演奏してくれました。「響歌
創楽」合唱の喜びを伝えよう』を目標に、
一年生から三年生までの二十九人がお互いに高
め合い、練習を積んできました。その成果を
本つどいでも十分に発揮してくれました。な
かでも「ボクはウタ」の曲では、大切な仲間
と歌う喜びが伝わってきて、とても感動しま
した。
部長の千田歩実さん(三年)は、「楽しかつ
た。県民会館で仲間と合唱を披露でき、満足
しました。」と感想を述べていました。



「みんなで推進 いわて教育の日」第三十九号 (令和五年十二月二十日発行)

「いわて教育の日」の
つどいに参加して

県教育表彰によせて

岩手県ユネスコ連絡協議会
佐々木 嘉直



この度、社会教育活動の指導者として表彰を受け、翌十日、吉里吉里小学校に出向き、「いわてユネスコ賞」の表彰を行いました。

学校統合後も獅子踊・大神楽・虎舞の伝承活動を継承してきている。震災後に生まれた児童たちも地域の復興に関わり学んでいることを実感しました。途中、復興途上にある山田町で防波堤の高さを実感、高台に移転した病院や住宅などを見学しました。

退職後、県のユネスコ会員となり十八年、事務局員として仕事をできたのは、県内にある二十二協会の活動・協力によるものと思います。震災時の被害状況調査、各種支援活動、復興視察等の日々を思い出しながら表彰を受けました。感謝。

岩手の教育の頼もしさ

岩手県公立学校退職校長会
二戸地区会事務局長 森川 和彦



晴れた空間に炎ほむら（が）立ち上がり、木立の間から朝日が差し込みました。十一月九日の始まりです。

「いわて教育の日」のつどい。トイサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）は、ほぼ満席の状態でした。開会行事に続いて、教育表彰が行われました。学校教育、学校保健、社会教育の活動者、社会教育団体、学術・文化財、教育行政の功労者が受賞されました。永年のご努力に敬意を表します。昭和四十年に始まった岩手の教育振興運動が宮々と続いていると感じました。生徒による発表は、盛岡南高校の軽音楽部と一関市立磐井中学校の演奏です。若い力の表現力に感動と頼もしさを覚えました。

講演は、中央教育審議会会長の荒瀬克己氏による「未来に向けた教育の在り方について」です。思えば、昭和五十二年「ゆとりの教育」、平成元年「社会の変化への対応」、平成十年「生きる力の育成」、平成二十年「基礎的、基本的な知識・技能の習得」と続いてきました。お話の中の「一人一人の子供を主体にする学校教育」「令和の日本型学校教育」に共感しました。まさに不易流行です。岩手の教育の頼もしさを実感した一日となりました。

共に学び合う学校を

盛岡市立巻堀小学校
校長 川越 浩子



「私たちの歌を聞いてください。」
ホールに鳴り響くギターとドラムの音。「いわて教育の日」のつどい初の軽音楽の発表ということもあり、客席も最初は戸惑っているようでした。演奏者である盛岡南高校の生徒さんたちはもつと戸惑い、いつも演奏している会場とは違う雰囲気のステージで、どうすれば客席にいる私達に楽しんでもらえるのか試行錯誤してステージに上ったのではないのでしょうか。遠慮がちだった手拍子が、最後はノリノリになったのは、彼女たちの想いが伝わる演奏だったからだと思えます。

盛岡南高校の軽音楽部も、その後素敵な歌声を響かせた一関市立磐井中学校の合唱も、この日が現メンバーでのラストステージということで、一音一音に「心を合わせて演奏する」という気持ちを感じました。きつとこれまで、一人一人の技量を高めることと、音を紡いでいくということについて試行錯誤の連続だったのではないかと思います。第三部の荒瀬克己氏の講演の中で、「学びを子どもに委ねる。子どもは試行錯誤ができていいのか」というお話がありました。この日の演奏に、子どもたちが試行錯誤してきた成果を見せられたように思います。

総合同会者より

盛岡白百合学園高等学校



司会を務めるにあたり、私は、このつどいを良い方向へと進められるよう心掛けて臨みました。受賞された皆様お一人一人に敬意をこめ、精一杯務めさせていたできました。

このような機会を頂けたことに嬉しく思いながらも、新入大会翌日で準備不足だった部分もあり、不安や緊張は多くありました。しかし、会場の皆様の温かいお声や笑顔に支えて頂き、できる限りの努力を尽くすことができました。かとおもいます。

今後は、放送東北大会や全国大会、また、白百合学園での日々の部活動を通して更なる技術向上を目指し、私らしい放送、そして、白百合らしい放送を作り上げたいです。自分の声で、より多くの場面で活躍し、未来への可能性を広げられるように邁進してまいります。

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第40号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 吉川 健次事務局 〒020-0004 盛岡市山岸4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445「いわて教育の日」推進協議会に
新規加入があり四十七団体に

「いわて教育の日」推進協議会

会長 吉川 健次

令和六年度「
いわて教育の日」
推進協議会の構
成員に一団体追
加加盟して四十

七団体になりました。その団体は、岩手県市町村教育委員会協議会です。この協議会は、三十三市町村の教育長と教育委員で構成する団体で、会長は盛岡市の多田英史教育長です。

多田教育長によると、例年、「いわて教育の日」のつどいには教育長や教育委員が出席しており、推進協議会の構成員のところは自分たちの協議会の名前がないのはどうしてか、と思っていたそうです。推進協議会の趣旨については理解しており、加盟したいとの申し出があり、「加入届け」を提出していただき、推進協議会の全体会議でも報告・確認されました。

教育長・教育委員の団体が加入になり、県民にとって「教育の日」の認識

が一段と向上するのではないかと思っています。ところでは、

推進協議会の事務局として、これを契機に教育に関心のある団体に加入を呼びかけていきたいと思っています。

今年の「いわて教育の日」のつどいは十一月一日に決定

ここ数年はコロナ感染予防のため、開催期日が年度初めには確定していません。入場人数の制限があったりしていましたが、今年の「いわて教育の日」のつどいは十一月一日、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）中ホールで開催すると決定しています。広く県民に呼びかけ、つどいに多くの県民が集まることを願っています。

「いわて教育の日」のつどいの内容
例年、開会行事、岩手県教育表彰、児童生徒による発表、記念講演となっています。教育表彰は、学校教育や社会教育、教育行政などで本県の教育の振興、発展のため、長年にわたり尽力

され、多大な貢献をされた方々が表彰されています。

司会者は高校生が行い、児童生徒の発表は、小学校、中学校、高等学校でその年度活躍している皆さんが登場しています。

記念講演は、新しい時代の教育の在り方について造詣の深い方にお願しているところでは、

「いわて教育の日」推進協議会の
活動内容

「いわて教育の日」の県条例が制定されたのは平成十七年四月一日です。

岩手県公立学校退職校長会は、この制定に向け、五年前から制定推進協議会を結成し精力的に進め、制定の年度に会の名称を現在の「いわて教育の日」推進協議会としたところです。

岩手県公立学校退職校長会が事務局となり、「いわて教育の日」の啓発普及、条例に基づき県が行う活動への推進協力などを目的として活動してきています。

年に二回発行の情報紙による啓発普及活動と、県が主催する「いわて教育の日」のつどいに共催者の立場から協議会の各構成団体に参加協力の要請などをを行っています。

令和七年度は設立二十周年の年であり、記念事業の在り方を思案中です。

「いわて教育の日」 「寄せて」

すべての子どもたちと学校の ウェルビーイングの実現をめざして

岩手県小学校長会
会長 前川 岳 詩



今年度の学校教育指針「すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現」を目指し、各校では、コロナ禍を通じて得た知見を活かしながら、学校教育の意義や内容を再確認し、それぞれの実情に応じた教育活動を推進しています。

これまで、多方面での子どもたちの活躍や学校公開、教科研究の活性化等、学校には以前の活気が戻りつつあります。一方、生徒指導、特別支援、GIGA推進、働き方改革、教員不足といった課題への対応は急務です。国の教育改革も加速化しており、学校にはより強固で確かな教育体制の構築が求められています。

働きやすくかつ働きがいのある職場環境の下、教職員自身のウェルビーイングを向上させ、組織として諸課題に取り組み、質の高い教育を提供することを通し、すべての子の幸せの実現に繋がる学校経営を目指していきたいと思えます。

いわての義務教育への 想いを受け継いで

岩手県中学校長会
会長 小野寺 哲 男



「岩手県の教育は、教育関係者の真摯でたゆまぬ努力の積み重ねの中で、その基盤がつくられてきました。素直でまじめな子どもたち、使命感と誠実さ、情熱をもつ教職員、授業研究に熱心に取り組む学校文化、それらを力強く支えてきた家庭・地域の存在、市町村教育委員会と県教育委員会の連携など、岩手の教育は多くの財産を保有しています。『これからの岩手の義務教育（平成二十一年）』抜粋。現在もこの言葉を大切にしています。

東日本大震災津波の教訓、コロナ禍の経験を生かして、当たり前を疑い、当たり前に感謝する日々です。令和の日本型学校教育、部活動地域移行、働き方改革等、課題は複数ありますが、支えてくださる方々に感謝しつつ、校長会として、今の生徒・教職員と共にウェルビーイングの実現を目指して取り組んでいます。



人との繋がりの再構築

岩手県PTA連合会
会長 山下 泰 幸



感染症予防の活動
自粛を経験して、PTAを取り巻く環境が大きく変化しております。困難な経験を経て今までの問題を再確認できました。大きな点は二つ。コミュニケーション能力の低下と、ハイブリットのスキルを得た事です。参集型とハイブリット型には賛否両論ございますが、共稼ぎで多様な時代においては、上手に受け入れて新しいコミュニケーションの手段として活用していく必要があると感じております。今後はコミュニティ・スクール、教職員の働き方改革、部活動の地域移行等がスムーズに展開され、岩手の全ての人に魅力ある教育現場となるよう環境整備を進めていく為に、子供、大人、学校、教職員、地域、行政とが手を取り合い、知恵を出し合い、人々が繋がる事の大切さを感じる活動を実践してまいります。

幼児教育の今後にむけて

岩手県国公立幼稚園・こども園協議会
会長 佐々木 千栄子



幼児教育は身近な人との温かな関わりのもとで、一人一人の子どもが心と体を

存分に働かせて遊びに没頭し、様々な経験を積み重ねる中で充実感や葛藤などを味わいながら、「生きる力」の基礎となる「資質・能力」を育んでいくことが求められています。

しかし現代社会において、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く状況の変化などが複合的に絡み合い、幼児の生活経験が不足しているといった課題も挙げられています。

私たちは、予測不能な社会の中でも、子ども達が前向きに生きていくために必要とされている資質・能力を育成する幼児教育の向上に一層取り組んでいく必要があります。小学校への接続や家庭・地域との連携など、今後も関係機関と情報を共有して取り組んで参ります。

編集後記

情報紙第四十号を、佐藤一男岩手県教育委員会教育長様はじめ多くの方々からご寄稿頂き発行することができました。有難うございました。感謝申し上げます。

また今年度、岩手県市町村教育委員会協議会が新たに加入しました。本協議会にとつて大きな力となることは間違いありません。合わせて感謝申し上げます。

今年度の「いわて教育の日」のつどいは通常に近い形で実施予定です。今まで以上の多く皆様方の参加をお待ちしています。

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第41号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 吉川 健次

事務局 〒020-0004 盛岡市山岸 4-7-35
TEL・FAX 019-663-0445

■合唱部からのメッセージ
山岸小学校は、どの教室からも毎朝歌声が響き、音楽を楽しみながら生活している学校です。私たち合唱クラブは歌の大好きな仲間が集まり、「いつも全力!この歌に思いをのせて」歴史に残る合唱クラブに「」をスローガンに、聴いている方に音楽の魅力を届けようと毎日練習に励んでいます。このような演奏の機会をいただき、とても嬉しいです。
今日は、学校で毎日歌っているお気に入りの曲とコンクールで取り組んできた曲をお届けします。和音の美しさや情景の変化が伝わるように、心を込めて歌います。



◆盛岡市立山岸小学校合唱クラブ
「いつも全力!」
この歌に思いをのせて
歴史に残る合唱クラブに「」

■太鼓部からのメッセージ
岩手県立宮古水産高等学校太鼓部です。平成十四年に同好会として結成以来二十二年間、地域のお祭りやイベントにおける演奏活動など積極的に行い地域社会にいくらかでも貢献しようと思つて活動しています。
私たち三陸地方に生活する者にとって海はなくてはならない存在です。普段の海は私たちに大自然の大きな恵みをもたらしてくれ、とともに、時には心を癒し、励まし、勇気づけ、感動や活力を与えてくれます。本日演奏する曲「潮騒」は、ふるさと三陸の海をイメージした曲です。穏やかな航路、安全を祈るかのような笛の音。そして、軽快な小太鼓が次から次へと打ち寄せる波を、大太鼓が荒れ狂う波を想わせてくれます。千変万化する海とその海と共に生きる人生の底力が感じられる曲です。



◆岩手県立宮古水産高等学校太鼓部
「潮騒」

■参会者から寄せられた感想
今年度も生徒による発表で「いわて教育の日」のつどいを盛り立ててくれました。
山岸小学校の合唱では、子どもたちの全身でリズムを取りながら楽しそうに歌っている姿に、つい微笑んでしまいました。小学生とは思えない力強さと練り合わされたまとまりのあるキレイな歌声に感動しました。
宮古水産高校の太鼓は圧巻でした。一人でもずれたなら成り立たない、素晴らしい連帯感での演奏でした。締め太鼓の乱れのない下打ちのリズムと大太鼓のアクティブな動き・音に背中がぞくぞくしました。
山岸小学校・宮古水産高校のどちらも、日頃からの鍛錬の成果が表れていたと思えました。とても楽しい時間でした。
(盛岡市内の中学校長より)

総合同会者より

盛岡白百合学園高等学校



ずっと当日を心待ちにしておりました。当日は、受賞者や生徒がより引き立つ進行ができるように努めました。反省ばかりですが、それができていたら嬉しいです。
進行中は、いらした方々の温かい反応で、私の言葉が伝わっているんだと実感できました。千々布様と対話をさせて頂いた時も、嬉しさと驚きで慌てていましたが、観客の方々の笑顔を見て笑って話すことができました。
この「つどい」から伝えようとする大切なこと、嬉しさを学びました。将来の夢に向かって、この学びを活かしてもっとたくさんさんの経験をしていきたいです。とてもとてもありがたい機会をいただき、本当にありがとうございます。

「みんなで推進 いわて教育の日」第四十一号 (令和六年十二月二十日発行)

教育表彰

受賞者からの声

雫石の愛情に

育てていただいた家庭部

雫石町立雫石中学校
家庭部顧問 藤井美幸



この度、岩手県教育表彰をいただき、大変光栄に思います。九年間にわたる地域社会との

協働や、若い世代の地域活動への参画の充実、そして卒業後も活躍を続けるOG生徒たちの姿を振り返ると、感慨深い気持ちでいっぱいです。

家庭部では、「六次産業化実習」やものづくりに取り組み、その活動の成果を地域活動や世代間交流、ボランティア活動に役立てる活動をしております。これらは、部員たちにとって地域の絆を見つめ直す貴重な経験となったとともに、培ったスキルを地域でも発揮できる大きなやりがいとなりました。地域産業や食文化にたずさわる中で、地域の多くの方々とのつながり助け合う大切さを学ぶ活動は、部員らが引き継ぎたいと思うものとなりました。「ふだん

のくらしをしあわせに。「くらし」と

「ふくし」の活動を模索する活動は、今後も生徒たちの励みとなり、よりよく生きるための力となっていくことと期待しております。

この表彰は、私たち家庭部の活動の成果ではありますが、何より雫石町の皆さまの温かい支えがあってこそものだと感じています。今後も学びを深め、地域に貢献できる活動が続けていきたいと思えます。改めて支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

ちよつと勉強が好きになれば

西和賀町社会教育委員

加藤和夫



上の三人の子供が保育所に在籍していた時期に沢内村の保護者会の役員になったのが始

まりで、その後四人目の子供が中学を卒業するまで、PTA活動に参加してきました。そんな経過からか、定年を迎えると同時に教育委員を拝命し、現在に至っています。

教育の何がわかってやっているのかと聞かれると「何もわかりません」と答えるしかないのですが「勉強が好きではない子供」の視点で、教育を考えたい」と思いながら、この十年を過ごしてきたように思います。

あまり勉強が好きではなかった高校

まで、そして社会に出てから、勉強がしたいと思いたち、職場の理解を得て通学した夜間短大での学び（の後の交流が主でした）の体験からか、本気で勉強したいと思ったとき、どうすれば実現できるのか、考えてくれれば、と思うようになりました。

そのためにも、最低限度の学力は必要なので、ちよつとでも勉強が好きになれる方法と思うのですが・・・たまに、あの子がこんなに真剣に目を輝かしている、という時があります。「その辺に答えがあるのかな」などと思いつつ、やっぱりもつと勉強しておけば良かったな、と思う毎日です。ありがとうございました。

教育表彰受賞の「挨拶

盛岡市立太田東小学校PTA
PTA会長 南 館 理



この度は事績顕著者表彰を賜り、大変光栄に存じます。これまで本校の活動にご尽力く

ださいました先輩に感謝すると共に、名誉ある賞に恥じぬよう身の引き締まる思いです。

盛岡市立太田東小学校は豊かな自然・歴史・文化に恵まれた地域にあり、それらを活かした活動を積極的に行つて

います。ことしの二月に開催された盛

岡市教育振興運動実践発表大会でお披露目させていただいた「八ツ口神楽」の継承もその一つです。毎年、五年生の秋に歴史を学び、翌年の春に向けて舞の練習、運動会での披露を経て、次の五年生へ引継ぎを行い、代々大切に継承しています。他にも太田民俗資料館での太田の歴史や文化の学習、りんごの収穫体験や、雫石川での鮭の稚魚放流による自然の学習等、地域の方々にご協力をいただきながら体験的な学習を進めています。この度の受賞はこのような特色のある活動を評価いただいた事によるものと存じます。今後も太田の豊かな自然や歴史・文化の有難さを実感し、地域とのつながりを大切にした活動をしていきたいと思えます。改めて、受賞した太田東小学校を代表しましてお礼の挨拶を申し上げます。本当にありがとうございます。



八ツ口神楽（運動会での舞）6年生

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第42号
(通巻)発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 吉川 健次事務局 〒020-0667 滝沢市鶴飼向新田 7-232
TEL・FAX 019-684-4341

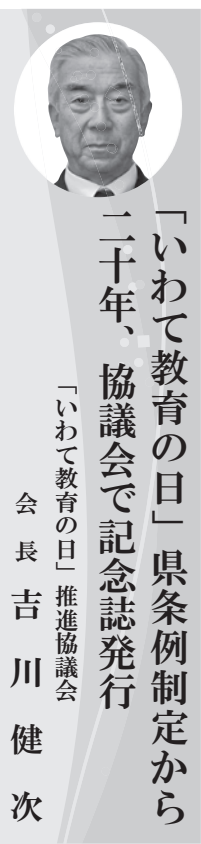
「二十周年記念誌」の発行

「いわて教育の日」の県条例が制定されたのは平成十七年四月一日です。岩手県公立学校退職校長会は、この制定に向け、その五年前から制定推進協議会を結成し精力的に進め、制定の年度に会の名称を現在の「いわて教育の日」推進協議会としたところです。

「いわて教育の日」が県条例に制定されてから今年で二十年になります。推進協議会の記念事業として、記念誌(つどい)の内容、推進協議会の活動内容)を作成することにしており、十二月には発行する予定です。

「いわて教育の日」への思い

平成十四、十五年当時、私は県教育委員会生涯学習文化課の課長でした。生文課は、学校以外の団体の窓口であり、「いわて教育の日」制定推進協議会の会長以下数名の役員が教育長へ制定の依頼に何回か訪れていました。その時は、教員出身の私が教育を敬えと県民に言うのは憚られる思いがありましたが、これは私の思い違いで、教育



「いわて教育の日」推進協議会
会長 吉川 健次

「いわて教育の日」県条例制定から二十年、協議会で記念誌発行

の大切さを県民と考える日というものでした。制定推進協議会は、制定するための教育長訪問ですので、総務課に対応してもらいました。

また、制定の平成十七年は、岩手県立総合教育センターの所長でした。教育センターは昭和六十二年までは盛岡の高松にあり、その後、花巻温泉の近くに移転しております。教育センターでは、どのようなことをやっているところなのか、県民に分かってもらうためにはということで「いわて教育の日」に関連づけて「センター公開」を開催しました。近隣の小中学生へ公開の案内状配付を学校に依頼しました。各教科の要点や子供の教育相談などを行い、好評を博しました。二十年たった今も続いていることを聞き、少しは教育センターについて分かってもらえたかなと思っているとところです。

今年の「いわて教育の日」のつどいは十一月十日に決定

今年の「いわて教育の日」のつどいは十一月十日、トーサイクラシック

ホール岩手(岩手県民会館)中ホールでの開催が決定しております。

「いわて教育の日」のつどいの内容につきましては、例年、開会行事、岩手県教育表彰、児童生徒による発表、講演となっております。教育表彰は、学校教育や社会教育、教育行政などで本県の教育の振興、発展のため、長年にわたり尽力され、多大な貢献をされた方々が表彰されております。

司会者は高校生が行い、児童生徒の発表は、小学校、中学校、高等学校でその年度活躍している皆さんが登場しております。

講演は、新しい時代の教育の在り方について造詣の深い方をお願いしております。

「いわて教育の日」推進協議会の活動内容

岩手県公立学校退職校長会が事務局となり、「いわて教育の日」の啓発普及、条例に基づき県が行う活動への推進協力などを目的として活動してきております。

年に二回発行の情報紙による啓発普及活動と、県が主催する「いわて教育の日」のつどいに共催者の立場から協議会の各構成団体に参加協力の要請などを行っております。

「幸福の岡」の実現を目指して

〔PTAと共に進めるキャリア教育〕

二戸市立福岡中学校 校長 中野善文

学校紹介

「野田村の太陽」としての誇りをもって

野田村立野田中学校 校長 小松順一



【はじめに】本校は、目指す学校像を「共に学び共に高め合う幸福の岡」とし、生徒・教員・保護者それぞれの幸福度を高められるように日々の教育活動を進めています。

【幸福度の高い生徒の姿】はさまざま考えられますが、本校では、自己有用感を高め「なりたい自分」「ありたい生き方」の実現に向けて努力する生徒、地域を愛し地域の発展に尽くす生徒の育成が重要と考え、キャリア教育と復興教育を学校経営の軸に据えています。

【キャリア教育の充実】を図る上で欠かすことのできないPTA事業が「大人に学ぶキャリア講演会」です。この事業は、平成二十六年から子どもたちの「生き方指導（生きる力）」と「キャリアプランニング」を目的に始まりました。当初は、学年PTA行事でしたが、二十八年度から全校生徒を対象に十講座を開設し、現在では十五講座まで拡大しています。

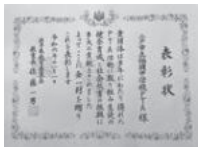
【はじめに】本校は、地元企業代表取締役（職員）、市役所職員、映像ディレクター、福祉関係職員、建築士、シェフ、ラジオパーソナリティー、宮司、銀行員、家屋調査士、ファイナンシャルプランナー、医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、理容師、農業経営者、消防士、保育士、幼稚園教諭、新聞記者、警察官

【未来を思い描く】生徒は、十五講座から二講座を選び受講します。講師の方々の経歴や仕事を選んだ理由、中学生時代の話等を目を輝かせて聞いています。そして、将来の自分を思い描きながら、今後の中学校生活と「なりたい自分」「ありたい生き方」についての考えを深めています。

今年度、これらの学びを深めるために、本校ではキャリアアスポートの有効活用に取り組んでいます。

【おわりに】本講演会をはじめ避難所訓練ゲーム（HUG）・メディアコメントロールの取組等が評価され、本校PTAは、昨年度県の教育表彰を受賞しました。

この素晴らしいPTAの皆様とともに、「幸福の岡」の実現を教職員一丸となって進めてまいります。



【東日本大震災後の村と本校の状況】東日本大震災により村の住家約三分の一が流失・全壊・半壊等の被害を受けました。中学校は津波の直接的な被害は受けませんでした。二か月後には校庭に避難所となり、百二十八戸の応急仮設住宅が建設され、その後六年以上にわたり、校庭が使えない状態が続きました。

【ふるさと野田村を愛し、その復興・発展を支える人材の育成】を目指して、地域の素材や外部の人材を効果的に活用した教育活動「太陽プロジェクト」を展開してきました。地域の未来を担う「ひとづくり」が本校の使命であり、学校・家庭・地域が協働して教育活動の充実を図っています。

また、生徒たちは、震災後、深い悲しみや絶望感が村全体を覆う中、せめて元気に頑張る姿を見せようという使命感から、「野田村の太陽になろう」という合言葉を掲げ、様々な取組を重ねてきました。

【創作太鼓の取組】震災後に取り組み始めた野田村創作太鼓は、令和七年度の三年生で十三代目となります。この「〇代目」という呼称は、代々受け継いできたという「縦



のつながり」とともに、その学年の「横のつながり」という二つの絆を表したものであり、毎年二月に行われる「三年生を送る会」で感謝と決意の会々で襲名すること、生徒たちは伝統を引き継ぎ更に発展させていこうとする決意を新たにしています。現在在籍している生徒は、震災直後に生まれ震災を知りませんが、創作太鼓の取組を通して、あの日の出来事やふるさとの復興の歩みを学び、ふるさとに生きる人々の想いを知ることが、大きな意義があり、教育的効果も大きいです。生徒たちの演奏には、震災で犠牲になられた方々への鎮魂と、震災の記憶と教訓を風化させないとのメッセージが込められています。

【おわりに】未曾有の大災害から十四年が経ちましたが、本校では、一日たりとも震災を忘れることはなく、「野田村の太陽」としての誇りを持ち、野田村民を元気づける太陽プロジェクトを展開しています。

震災の経験や「野田村の太陽になろう」と決意した当時の生徒たちの想いをしっかりと語り継ぎ、これからも地域の未来を担う「ひとづくり」に努めていきたいと思います。

みんなで推進

いわて教育の日

情報紙
第43号
(通巻)

発行 「いわて教育の日」推進協議会
代表 吉川 健次

事務局 〒020-0667 滝沢市鶴飼向新田7-232
TEL・FAX 019-684-4341



◆来賓祝辞

岩手県議会議長

城内 愛彦

祝辞を述べられる
県議会議長 城内愛彦様



◆主催者挨拶

岩手県教育委員会教育長

佐藤 一男

挨拶する
佐藤一男県教育長

第一部 開会行事

二十回となりました本年度の「いわて教育の日」のつどいは、十一月十日(月)にトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)中ホールで開催されました。
県内の教育機関・団体、県民の方々

令和七年度
「いわて教育の日」のつどい
開催

など約三七〇名が出席し、三部構成で行われました。第一部は開会行事と事績顕著者表彰、第二部は講演、そして第三部が児童生徒による発表という内容で行われました。以下にその概要についてお伝えします。

◆教育表彰(事績顕著者表彰)

開会行事に引き続いて、本県教育の振興に多大な貢献をされた団体・個人に、岩手県教育委員会佐藤一男教育長から表彰状と記念品が贈られました。受賞された団体・個人の方々は次の通りです。(敬称略)



第二部 講演

演題

「主体的学習者の育成―学習指導要領の改訂と今後の教育―」

講師 貞広 斎子 氏

(千葉大学副学長・教育学部教授)



総司会者より

盛岡白百合学園高等学校



「いわて教育の日」のつどいの総合司会に任命していただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

総合司会を務めるにあたっては、進行を円滑に進めるために、事前の準備や打ち合わせを大切にして臨みました。本番では受賞者や来場者の皆様が安心して参加できるよう、精一杯務めました。会場の皆様の温かい反応に支えられ、最後まで落ち着いて進行することができました。行事を終えたとき、私は大きな達成感を得ました。司会として場を支える責任の重さと、やりがい改めて実感しました。
この経験は自分を成長させる大切な糧になると感じています。皆様への感謝の気持ちを胸に、これからも新しいことに挑戦していきたいと思えます。改めて、今回は「いわて教育の日」のつどいの総合司会に任命していただき、本当にありがとうございました。

「みんなで推進 いわて教育の日」第四十三号(令和七年十二月二十日発行)

教育表彰—受賞者からの声

学校保健安全教育 表彰

二戸市立金田一小学校 校長 高橋 聡 子



このたびは、学校保健安全教育の部におきまして、素晴らしい賞をいただき心より感謝申し上げます。今回の「学校歯科保健活動」に取り組んでいくことを高く評価していただいたものと思っております。

中でも、学校歯科医、曾根襄先生の年三回の歯科検診、市の歯科衛生士さんと連携した歯科指導、金田一中学校区による合同学校保健委員会の開催など、子どもたちを取り巻くすべての方々にご指導・ご支援いただき、現在本校のむし歯のない子どもの割合は九割を超えています。

また、学校独自の「給食前のかみかみ運動」「食後の一斉歯みがき」「木曜日のフツ化物洗口」は、コロナ禍も継続し、少しずつ教師主体から児童主体へと活動が変化し、子どもたちの自己肯定感も向上しています。今回の受賞を励みとし、今後も学校歯科保健活動を子どもたちと一緒に継続・発展させてまいります。



教育行政 表彰

前久慈市教育委員 成田 不美



この度は教育表彰を賜り大変光栄に思い感謝申し上げます。これは、ひとえに久慈市教育委員会の皆様の支えがあればこそと思っております。

さて、在任中は、たくさんの教育活動を参観する機会がありました。学校公開の研究授業では、子どもたちの明るい姿が印象的でした。授業者が徹底的に考え抜いた教材や、説明しなくなるような問いかけを準備することで、子どもたちの学習意欲が表情に表れたのだと思います。さらには、友達の発言に相槌を打つ自然な姿に感心したものです。



学習発表会を終えて（来内小学校）

学習発表会（来内小学校の事例）では保護者による自由研究発表があり、AIに昔話の主人公のキーワードを入力したところ、全く似つかぬ顔が現れたことや、子どもたちの「どんぐりと山猫」の劇に突如、先生方が現れ特技を披露し「だから私が一番偉い！」と話を広げたことには驚かされました。

社会教育団体 表彰

北上市立飯豊小学校PTA 会長 高橋 卓也



この度は教育表彰を賜り、大変光栄に存じます。これまで本校の活動にご尽力くださいました先輩方、地域の皆様、保護者の皆様、先生方、すべての方々に心より感謝申し上げます。

北上市立飯豊小学校は、昨年、創立一五〇周年を迎えました。六年生児童がデザインした記念Tシャツを作製し、胸元には飯豊伝統の鬼剣舞の絵柄、背中には力強い「Ittoyo」の文字を入れました。運動会や式典で全校児童が着用し、記念にみちのく芸能まつり市民パレードにも参加し、記憶に残る事業となりました。



本校学区内には多くの企業が建ち並び、新しい道路の開通もあり交通量が増加、大型車両の通行も増えています。交通安全への意識は高く、「おやじの会」をはじめ、地域の方々や保護者による見守り活動を継続して行っております。また、各地区の区長、自治会長をお招きしての地区懇談会にて情報を共有し、親としても常に意識しながら、地域と共に見守っていくことの必要性を再認識しております。

参会者から寄せられた感想

盛岡市立仙北小学校長 村田 浩隆

「いわて教育の日」の児童生徒の発表は、本県教育がこれまで大切にしてきたことが凝縮されていたと感じました。盛岡視覚支援学校高等部の阿部玲菜さんの弁論では、「言葉に込めた思いを感じ取る」ことができ、「目しか悪くない」など、受け入れて前に進む生き方を教えていただいたように思いました。



北上ミュージーズコーラス隊による合唱では、「中学校でも合唱を続けたい」と複数の中学校から集まり合唱に取り組み思いが歌声となって、真つすぐに観客席に届いてきました。

群読劇「アテルイ」は圧巻でした。洪民中学校が受け継いできた伝統を感じるとともに、演技、歌、演奏、そして群読によって「郷土を愛する熱い思い」が会場いっぱいに広がりました。

AIには決して真似のできない、児童生徒だからこそできる表現に、教育の素晴らしさを強く感じました。



第二部 児童生徒による発表

◆県立盛岡視覚支援学校 高等部
専攻科 理療科
「五感を活かす」



◆メッセージ

盛岡視覚支援学校は、幼稚部から高等部専攻科まで幅広い年代の幼児児童生徒が通う支援学校です。私たちは、視覚に障害を持っていますがそれぞれが自分の障害と向き合い、他の感覚を駆使ながら生活しています。そして、本校の校訓である「自分の事は自分でやれ、天を仰いで歩け」を念頭に置き毎日勉強に励んでいます。今回このような発表の機会をいただき大変光栄に思います。

今回発表させていただいたのは、今年岩手で開催された東北地区盲学校弁論大会で、優秀賞を受賞した際の弁論です。とても緊張しましたが、視覚に障害を持っていても、他の五感を活かして補えば出来ないことはないという事を沢山の方に知っていただきたいという思いを込めて発表しました。

◆北上ミュージックコーラス隊

・「南島歌遊び」より
収穫・哀愁・陽気な娘たち
・「空」



◆メッセージ

私たち北上ミュージックコーラス隊は、歌の大好きな小・中学生が集まり学年・学校の壁を越えてメンバー全員で仲良く楽しく活動することを目標としています。毎年の定期公演では、ミュージカルにも取り組んでおり、ダンスやお芝居に挑戦しています。

今回は、中学生のメンバーで今年のNHK全国音楽コンクールの課題曲「空」と全日本合唱コンクールに向け取り組んだ「収穫」「哀愁」「陽気な娘たち」の四曲を披露しました。「空」

では、歌詞の言葉が聞いている方々に届くように、他の三曲は同じ言葉の繰り返しの多い曲なので強弱や声色を変えることに気をつけ歌いました。思い出の曲を披露することができてとても嬉しかったです。



◆盛岡市立渋民中学校 群読劇「アテルイ」

今後もミュージズらしい明るい歌声を様々な方々にお届けできるよう学年・学校の壁を越え、仲良く楽しく活動していきたいと思っています。



◆メッセージ

渋民中学校の伝統である群読劇は現在、特設演劇部として、希望したやる気のある生徒がたくさん集まっています。今年八月には静岡県で行われた全国中学校総合文化祭に出演し、今回は別の演目「風の吹くところ」を披露しました。支えてくださった皆様には、本当に感謝しています。今年度は、自分たちで創る群読劇を目指し、先生方に頼りすぎず、場面ごとのリーダーや全体のリーダーを中心に練習を取り組んできました。もっと良いものを創ろうと、日々努力しています。



今回の発表が三年生は最後の舞台となるため、緊張しましたが、私たちの全力を出し切ることができました。

会場の方々の拍手がとても嬉しかったです。今後は二年生が主体となって活動していきます。三年生や先輩方が継いできた伝統を次の代、さらに先の代へと継いでいってほしいと思っています。

4

「いわて教育の日」 を支えた皆さん

- 推進協議会歴代役員・事務局員一覧
- 推進協議会構成団体等一覧（H27・R7）
- 「いわて教育の日」推進協議会
設立20周年記念事業実行委員会
- 記念誌編集後記

		推進協議会					
		H26年度⑨	H27年度⑩	H28年度⑪	H29年度⑫	H30年度⑬	R元年度⑭
役員	会長	小嶋 久人	小嶋 久人	小嶋 久人	佐瀬 壽朗	佐瀬 壽朗	木村 幸治
	副会長	桑島 博	桑島 博	長山 洋	長山 洋	長山 洋	長山 洋
		大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司
		金谷 茂	金谷 茂	五十嵐のぶ代	五十嵐のぶ代	田口 昭隆	田口 昭隆
		吉村 暢夫	西村 倬郎	西村 倬郎			
	監事	金田一 勲	瀬川 愛子	瀬川 愛子	瀬川 愛子	瀬川 愛子	瀬川 愛子
		菊池 昭一	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治
		三浦 保治	金田一 勲	阿部 義雄	佐々木 満	近藤 宗光	近藤 宗光
		瀬川 愛子	小野寺正彦	小野寺正彦	高橋 雅弘	高橋 雅弘	今野 充雅
		八巻 恒雄	八巻 恒雄	星野 勝利	星野 勝利	星野 勝利	星野 勝利
		向田 實雄	向田 實雄	高橋 力	高橋 力	高橋 力	八重樫 勝
		原 久雄	原 久雄	原 久雄	田口 淳一	田口 淳一	田口 淳一
		小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造
		長谷川 滋	多田 英史	柳村 栄	石川 正明	外山 敏	佐藤 卓
		小岩 和彦	佐藤 嘉彦	菅原 正弘	高橋 清之	佐藤 進	小野寺昭彦
高橋 廣至		平賀 信二	平賀 信二	川上 圭一	川上 圭一	佐藤 有	
砂金 良昭	砂金 良昭	佐藤 淳一	佐藤 淳一	佐藤 淳一	佐藤 淳一		
澤瀬 清己	澤瀬 清己	澤瀬 清己	小野寺正宏	小野寺正宏	小野寺正宏		
事務局	局長	櫻糈 毅	櫻糈 毅	三浦 晃	三浦 晃	三浦 晃	熊谷 幸一
	次長	篠田 宜道	篠田 宜道	篠田 宜道	篠田 宜道	篠田 宜道	館澤 卓宏
	委員	西村 倬郎	西村 倬郎	佐瀬 壽朗	櫻糈 毅	鳥羽 彊	櫻糈 毅
		佐瀬 壽朗	佐瀬 壽朗	鳥羽 彊	木村 幸治	櫻糈 毅	三浦 晃
		鳥羽 彊	鳥羽 彊	木村 幸治	高橋 新悦	木村 幸治	菅原 壽
		木村 幸治	木村 幸治	高橋 新悦	伊藤 好男	菅原 壽	吉川 健次
		高橋 新悦	高橋 新悦	櫻糈 毅	鳥羽 彊	高橋 新悦	高橋 新悦
		菊池 成夫	菊池 成夫	菊池 成夫	菊池 成夫	館澤 卓宏	篠田 宜道
澤村 憲照	澤村 憲照	澤村 憲照	澤村 憲照	澤村 憲照	澤村 憲照		

		推進協議会					
		R 2年度⑮	R 3年度⑯	R 4年度⑰	R 5年度⑱	R 6年度⑲	R 7年度⑳
役員	会長	木村 幸治	木村 幸治	木村 幸治	吉川 健次	吉川 健次	吉川 健次
	副会長	長山 洋	長山 洋	長山 洋	長山 洋	長山 洋	長山 洋
		大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司
		田口 昭隆	岩館 智子	岩館 智子	山下 泰幸	山下 泰幸	山下 泰幸
	監事	瀬川 愛子	瀬川 愛子	及川 公子	及川 公子	館澤 敏子	館澤 敏子
		三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治
		近藤 宗光	近藤 宗光	近藤 宗光	安藤 勝夫	安藤 勝夫	太田代政男
		今野 充雅	今野 充雅	芦 宏	芦 宏	佐々木千栄子	後藤 敏信
		星野 勝利	星野 勝利	星野 勝利	千葉 仁一	千葉 仁一	千葉 仁一
		八重樫 勝	八重樫 勝	八重樫 勝	八重樫 勝	川村 祥平	川村 祥平
		田口 淳一	田口 淳一	田口 淳一	遠藤 洋一	遠藤 洋一	遠藤 洋一
		小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造
		太田 勝浩	小山田秀次	紺野 好弘	佐藤 淳	前川 岳詩	川村 憲弘
		菊池 正樹	松葉 覚	佐野 理	中屋 豊	小野寺哲男	照井 英輝
佐藤 有		梅津久仁宏	梅津久仁宏	高橋 一佳	高橋 一佳	中村 智和	
金田一文紀	金田一文紀	佐藤 工	佐藤 工	佐藤 工	佐藤 工		
佐々木秀市	佐々木秀市	村上智加子	村上智加子	村上智加子	村上智加子		
事務局	局長	熊谷 幸一	熊谷 幸一	熊谷 幸一	熊谷 幸一	熊谷 幸一	多田 英史
	次長	館澤 卓宏	小笠原 章	小笠原 章	大西 洋悦	大西 洋悦	熊谷 雅英
	委員	櫻糈 毅	菅原 壽	菅原 壽	澤村 憲照	澤村 憲照	熊谷 幸一
		三浦 晃	吉川 健次	吉川 健次	篠田 宜道	篠田 宜道	篠田 宜道
		菅原 壽	館澤 卓宏	館澤 卓宏	館澤 卓宏	館澤 卓宏	館澤 卓宏
		吉川 健次	澤村 憲照	澤村 憲照	平 政光	平 政光	平 政光
		高橋 新悦	篠田 宜道	篠田 宜道	小笠原 章	小笠原 章	小笠原 章
		篠田 宜道	鳥羽真喜子	鳥羽真喜子	鳥羽真喜子	鳥羽真喜子	鳥羽真喜子
澤村 憲照							

推進協議会歴代役員・事務局員一覧

		制定推進協議会			推進協議会			
		H14年度	H15年度	H16年度	H17年度⑩	H18年度①	H19年度②	
役員	会長	佐々木竹夫	佐々木竹夫	佐々木竹夫	佐々木竹夫	佐々木竹夫	佐々木竹夫	
	副会長	村井 政吉	村井 政吉	村井 政吉	村井 政吉	村井 政吉	村井 政吉	
		菅 三郎	菅 三郎	菅 三郎	菅 三郎	菅 三郎	菅 三郎	
		東島 末起	東島 末起	東島 末起	東島 末起	東島 末起	東島 末起	
		久慈 竜也	久慈 竜也	久慈 竜也	久慈 竜也	藤原由美子	小野寺明美	
	監事				大崎 弘一	小嶋 久人	小嶋 久人	
					金田一 勲	金田一 勲	金田一 勲	
	委員				中川 健	中川 健	中川 健	
			古川 孝二	古川 孝二	古川 孝二	島香 廉	斎藤 文三	松尾 弘一
			瀬川 智子	瀬川 智子	瀬川 智子	瀬川 智子	瀬川 智子	瀬川 智子
			山口 武利	山口 武利	山口 武利	松尾 弘一	松尾 弘一	佐々木初朗
			千葉 孝雄	千葉 孝雄	千葉 孝雄	佐々木初朗	佐々木初朗	菅原 昭平
			堀川 英俊	堀川 英俊	堀川 英俊	菅原 昭平	菅原 昭平	金子 彰吉
			金子 彰吉	金子 彰吉	金子 彰吉	金子 彰吉	金子 彰吉	三浦 五郎
			三浦 五郎	三浦 五郎	三浦 五郎	三浦 五郎	三浦 五郎	千葉 仁一
		遠藤 健悦	山村 保之	伊藤 一彦	太田代政男	千葉 茂	田中吉兵衛	
		三浦 壮六	藤澤 秀雄	三浦 晃	菅原 壽	岡田 安生	遠藤 洋一	
		三田 信一	田口 淳一	田口 淳一	鈴木 文雄	鈴木 文雄	砂金 文昭	
		森越 康雄	森越 康雄	砂金 文昭	砂金 文昭	砂金 文昭	三浦 輝夫	
		小野寺育郎	小野寺育郎	吉田 炬彦	吉田 炬彦	三浦 輝夫		
事務局	局長	村田 孝介	村田 孝介	村田 孝介	小嶋 久人	熊谷 典次	熊谷 典次	
	次長	大崎 弘一	大崎 弘一	大崎 弘一	木村 悌郎	木村 悌郎	木村 悌郎	
	委員	小嶋 久人	小嶋 久人	小嶋 久人	吉村 暢夫	加藤 弘	加藤 弘	
		熊谷 典次	木村 悌郎	吉村 暢夫	佐瀬 壽朗	吉村 暢夫	吉村 暢夫	
		木村 悌郎	藤澤 祐三	木村 悌郎	清水 光男	佐瀬 壽朗	佐瀬 壽朗	
		藤澤 祐三		藤澤 祐三		清水 光男	清水 光男	

		推進協議会						
		H20年度③	H21年度④	H22年度⑤	H23年度⑥	H24年度⑦	H25年度⑧	
役員	会長	佐々木竹夫	小嶋 久人	小嶋 久人	小嶋 久人	小嶋 久人	小嶋 久人	
	副会長	村井 政吉	菅 三郎	桑島 博	桑島 博	桑島 博	桑島 博	
		菅 三郎	桑島 博	米澤 慎悦	大橋 清司	大橋 清司	大橋 清司	
		桑島 博	松尾 正弘		米澤 慎悦	金谷 茂	金谷 茂	
		小野寺明美			吉村 暢夫	吉村 暢夫	吉村 暢夫	
	監事	小嶋 久人						
		金田一 勲	金田一 勲	金田一 勲	金田一 勲	金田一 勲	金田一 勲	
	委員		菊地 啓一	菊地 啓一	菊地 啓一	菊地 啓一	菊池 昭一	菊池 昭一
			松尾 弘一	松尾 弘一	大橋 清司	三浦 保治	三浦 保治	三浦 保治
			及川 公子	及川 公子	及川 公子	及川 公子	及川 公子	及川 公子
			佐々木初朗	佐々木初朗	佐々木初朗	八巻 恒雄	八巻 恒雄	八巻 恒雄
			菅原 昭平	向田 實雄	向田 實雄	向田 實雄	向田 實雄	向田 實雄
			金子 彰吉	遠藤 洋一	安藤 厚	安藤 厚	安藤 厚	安藤 厚
			三浦 五郎	三浦 五郎	小田島順造	小田島順造	小田島順造	小田島順造
			岩田 俊雄	新沼 敏哉	阿部 修志	阿部 敬行	横沢 幹雄	陳々岡安雄
		佐々木壮一	篠田 宜道	吉田 道一	玉川 英喜	熊谷 雅英	中村 雅英	
		遠藤 洋一	千葉 研二	千葉 研二	高橋 和雄	高橋 和雄	高橋 廣至	
	豊巻 浩也	豊巻 浩也	豊巻 浩也	豊巻 浩也	豊巻 浩也	豊巻 浩也		
	千葉 進	千葉 進	上田 高	上田 高	上田 高	上田 高		
事務局	局長	熊谷 典次	熊谷 典次	加藤 弘	金子 豊	櫻糘 毅	櫻糘 毅	
	次長	木村 悌郎	木村 悌郎	金子 豊	西村 倬郎	四井 謙吉	四井 謙吉	
	委員	加藤 弘	加藤 弘	吉村 暢夫	佐瀬 壽朗	西村 倬郎	西村 倬郎	
		吉村 暢夫	吉村 暢夫	西村 倬郎	鳥羽 彊	佐瀬 壽朗	佐瀬 壽朗	
		金子 豊	金子 豊	佐瀬 壽朗	櫻糘 毅	鳥羽 彊	鳥羽 彊	
		西村 倬郎	西村 倬郎	吉川 健次	木村 幸治	木村 幸治	木村 幸治	
		佐瀬 壽朗	佐瀬 壽朗	菊池 成夫	菊池 成夫	高橋 新悦	高橋 新悦	
清水 光男	三浦 晃	三浦 晃	三浦 晃	菊池 成夫	菊池 成夫			
			高橋 新悦	三浦 晃	三浦 晃			

〈参考〉平成27年度「いわて教育の日」推進協議会構成団体等一覧

No.	構成団体名	役職名	代表者氏名
1	一般社団法人 岩手経済同友会	代表幹事	高橋 真 裕
2	岩手県農業協同組合中央会	会 長	田 沼 征 彦
3	岩手県森林・林業会議	理 事 長	中 崎 和 久
4	岩手県漁業協同組合連合会	代表理事長	大 井 誠 治
5	岩手県商工会議所連合会	会 長	谷 村 邦 久
6	岩手県商工会連合会	会 長	高 橋 富 一
7	岩手県中小企業団体中央会	会 長	谷 村 久 興
8	一般社団法人 盛岡青年会議所	理 事 長	岩 淵 健 二
9	社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会	会 長	桑 島 博
10	社会福祉法人 盛岡市社会福祉協議会	会 長	川 村 裕
11	盛岡市町内会連合会	会 長	平 井 興太郎
12	岩手県社会教育連絡協議会	会 長	大 橋 清 司
13	公益社団法人 岩手県青少年育成県民会議	会 長	橋 田 純 一
14	岩手県青年団体協議会	会 長	松 田 恵美子
15	特定非営利活動法人 岩手県地域婦人団体協議会	会 長	瀬 川 愛 子
16	岩手県子ども会育成連合会	会 長	三 浦 保 治
17	盛岡市子ども会育成会連絡協議会	会 長	鎌 田 まき子
18	日本ボーイスカウト岩手連盟	理 事 長	末 永 正 志
19	公益社団法人 岩手県防犯協会連合会	会 長	橋 田 純 一
20	盛岡市防犯協会	会 長	谷 藤 裕 明
21	盛岡東地区防犯協会連合会	会 長	鎌 田 まき子
22	岩手県警友会連合会	会 長	宮 原 幸 一
23	岩手県退職公務員連盟	会 長	金田一 勲
24	岩手県退職公務員連盟盛岡支部	支 部 長	三 上 正 二
25	盛岡市教育振興推進委員会	会 長	八 卷 恒 雄
26	一般社団法人 岩手県PTA連合会	会 長	金 谷 茂
27	盛岡市PTA連合会	会 長	鈴 木 寛 隆
28	岩手県高等学校PTA連合会	会 長	渡 辺 正 和
29	岩手県私立小中高等学校保護者会	会 長	川 村 圭 司
30	岩手県国公立幼稚園PTA連絡協議会	会 長	照 井 賢
31	岩手県国公立幼稚園協議会	会 長	小野寺 正 彦
32	岩手県私立幼稚園PTA連合会	会 長	中 島 伊 織
33	一般社団法人 岩手県私立幼稚園連合会	会 長	坂 本 洋
34	一般社団法人 岩手県私学協会	会 長	小田島 順 造
35	岩手県小学校長会	会 長	多 田 英 史
36	盛岡市小学校長会	会 長	安 達 裕 司
37	岩手県中学校長会	会 長	佐 藤 嘉 彦
38	盛岡市中学校長会	会 長	杉 本 勉
39	岩手県高等学校長協会	会 長	平 賀 信 二
40	岩手県小中学校副校長会	会 長	桑 原 良 幸
41	岩手県高等学校副校長協議会	会 長	菅 原 一 成
42	岩手県教職員組合	中央執行委員長	砂 金 良 昭
43	岩手県高等学校教職員組合	執行委員長	澤 瀬 清 巳
44	日本教育会岩手県支部	支 部 長	高 橋 力
45	岩手県高等学校長協会OB会	会 長	原 久 雄
46	岩手県公立学校退職校長会	会 長	西 村 倬 郎
個	富士大学	前 学 長	藤 原 隆 男
個	岩手県退職公務員連盟盛岡支部	前支部長	及 川 悌三郎

令和7年度「いわて教育の日」推進協議会構成団体等一覧

No.	構成団体名	役職名	代表者氏名
1	一般社団法人 岩手経済同友会	代表幹事	岩山 徹大 晶 山
2	岩手県農業協同組合中央会	代表理事会長	伊藤 清孝
3	岩手県森林・林業会議	理事長	中崎 和久
4	岩手県漁業協同組合連合会	代表理事会長	山崎 義広
5	岩手県商工会議所連合会	会長	谷村 邦久
6	岩手県商工会連合会	会長	高橋 富一
7	岩手県中小企業団体中央会	会長	小山田 周右
8	公益社団法人 日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会	会長	山内 圭介
9	社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会	会長	長山 洋
10	社会福祉法人 盛岡市社会福祉協議会	会長	谷藤 裕明
11	盛岡市町内会連合会	会長	小枝指 好夫
12	岩手県社会教育連絡協議会	会長	大橋 清司
13	公益社団法人 岩手県青少年育成県民会議	会長	菅野 洋樹
14	岩手県青年団体協議会	会長	松田 恵美子
15	特定非営利活動法人 岩手県地域婦人団体協議会	会長	館澤 敏子
16	岩手県子ども会育成連合会	会長	三浦 保治
17	盛岡市子ども会育成会連絡協議会	会長	鎌田 まき子
18	日本ボーイスカウト岩手連盟	連盟長	南部 利文
19	公益社団法人 岩手県防犯協会連合会	会長	石堂 淳
20	盛岡市防犯協会	会長	内館 茂
21	盛岡東地区防犯協会連合会	会長	大畑 正二
22	岩手県警友会連合会	会長	細田 敬一
23	岩手県退職公務員連盟	会長	太田代 政男
24	岩手県退職公務員連盟盛岡支部	支部長	太田代 政男
25	盛岡市教育振興推進委員会	会長	千葉 仁一
26	一般社団法人 岩手県PTA連合会	会長	山下 泰幸
27	盛岡市PTA連合会	会長	藤田 健一郎
28	岩手県高等学校PTA連合会	会長	川上 博基
29	岩手県私立小中高等学校保護者会	会長	白澤 仁
30	岩手県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会	会長	内記 裕太
31	岩手県国公立幼稚園・こども園協議会	会長	後藤 敏信
32	岩手県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会	会長	元居 桂子
33	一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会	会長	今西 界雄
34	一般社団法人 岩手県私学協会	会長	小田島 順造
35	岩手県小学校長会	会長	川村 憲弘
36	盛岡市小学校長会	会長	有馬 賢
37	岩手県中学校長会	会長	照井 英輝
38	盛岡市中学校長会	会長	及川 公子
39	岩手県高等学校長協会	会長	中村 智和
40	岩手県小中学校副校長会	会長	菅原 修一
41	岩手県高等学校副校長協議会	会長	高橋 健
42	岩手県教職員組合	中央執行委員長	佐藤 工
43	岩手県高等学校教職員組合	執行委員長	村上 智加子
44	日本教育会岩手県支部	支部長	川村 祥平
45	岩手県高等学校長協会退職校長会	会長	遠藤 洋一
46	岩手県公立学校退職校長会	会長	吉川 健次
47	岩手県市町村教育委員会協議会	会長	多田 英史

編集後記

平成十七年四月一日に設立された「いわて教育の日」推進協議会が、今年、大きな節目となる二十年目を迎え、その記念の一環として、これまで歩んできた道のりを振り返り、今後の活動の道標となることを願い、「設立二十周年記念誌」を発刊いたしました。

この記念誌の発刊にあたりましては、趣旨をお汲み取りいただき、公務ご多端の中、岩手県知事 達増拓也様、岩手県教育委員会教育長 佐藤一男様からのご祝辞を賜りましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

記念誌編集を通して、全国連合退職校長会の「教育の日」制定趣意書などを岩手県公立学校退職校長会が主体的に受け止め、構成団体の組織化、県議会への精力的な働きかけなど、先輩諸氏の並々ならぬ努力が実り、条例の制定に至った経緯、十周年記念誌発刊以降の積み重ねてきた活動などを改めて辿る機会となり、私たちにとってこの上ない財産となりました。

今回の編集につきましては、至らない点もあろうかと存じますが、ご寛恕いただければ幸いです。

結びに、記念誌発刊にあたり、改めまして諸先輩方のご努力・ご功績に敬意を表すとともに、ご協力いただきました多くの関係者の皆様方に深く感謝の意を表する次第です。

令和七年十二月二十日

「いわて教育の日」推進協議会

設立二十周年記念事業実行委員会

事務局長 熊谷雅英



「いわて教育の日」推進協議会

設立二十周年記念事業実行委員会

実行委員長
事務局長
事務局次長
事務局員

吉川健次
熊谷雅英
大西洋悦
熊谷幸一
熊谷宜道
篠田宜道
館澤卓宏
平澤政光
小笠原政章
鳥羽真喜子

「いわて教育の日」推進協議会

設立二十周年記念誌

発行日 令和七年十二月二十日

編集・発行 「いわて教育の日」推進協議会

会長 吉川 健次

印刷所 (有)セーコー印刷

盛岡市下の橋町二―二三

電話 〇一九―六五一―三六〇六

